

鑑札御書換(御下渡)願  
豫テ御下渡ノ鑑札何々<sup>毀損又ハ失ヒタ</sup>ル事由ヲ詳記スニ付御書換(更ニ御下渡)奉願候也

年月日

何郡何村何番地(寄留)  
婿 何 年 某 印

右取締

何 某 印

宛前ニ同シ

第五号書式

休業ノ事ニ付一時休業仕候間鑑札返納仕候也  
私儀何々由ヲ記ス

年月日

何郡何村何番地(寄留)  
婿 何 年 某 印

右取締

何 某 印

宛前ニ同シ

前書ノ通相違無之候也

右戸長

何 某 印

第六号書式

鑑札御下ケ戻願  
私儀何々由ヲ記スニ付一時休業罷在候處今般何々<sup>營業ノ事</sup>由ヲ記ス營業仕度候間鑑札御下戻奉願候也

年月日

何郡何村何番地(寄留)  
何 某 年 某 印

右取締

何 某 印

宛前ニ同シ

前書ノ通相違無之候也

右戸長

何 某 印

第七号書式

廢業届

私儀

今般何々廢業スル事ニ付廢業仕候間鑑札返納仕候也  
由テ略記ス

何郡何村何番地(寄留)

年月日

右取締

何某印

宛前ニ同シ

前書ノ通相違無之候也

右戸長

何某印

(縣)丙第九号

十六年一月十六日

郡役所

昨十五年丙卯六十三号ヲ以テ相違置候娼妓心得別紙ノ通改定候條營業者ヘ告示スヘシ此  
旨相違候事

娼妓心得

- 第一條 免許鑑札檢査證及ヒ寄留主ノ契約書等ハ紛失セサル様注意スヘシ
- 第二條 規則ヲ了解シ得ル時ハ寄留主ニ告示ヲ乞フヘシ
- 第三條 病毒豫防ノ爲メ屢々入浴シ身体ヲ清潔ニスヘシ

明治二十八年八月十四日  
明令第一四三號  
第一縣令第一四三號  
三縣令第一四三號  
テ三縣令第一四三號  
中酒田並  
欄ナ更正

第四條 妊娠或ハ月經閉止又ハ疾病ニ罹リタルキハ速ニ寄留主ニ告ケ醫員ノ診察ヲ受ク  
ヘシ

第五條 月經中ハ營業ヲスヘカラス

第六條 貸座敷主ニ於テ苛酷ノ所爲アルキハ直ニ警察官史ニ届出ツヘシ

第七條 客ノ廿四時以上流連スルカ或ハ其舉動不審ナルモノト認ムルキハ速ニ貸座敷主  
ニ密告スヘシ

第八條 廢業又ハ移轉ヲ妨グル者アルキハ警察官史ニ届出ツヘシ

第九條 本業ノ餘暇ニハ裁縫筆算等ヲ學ブコト心懸クヘシ

○第四款 騷擾院及檢査所區畫

(縣)乙第九號 十七年二月二十五日

騷擾院及檢査所區畫別表之通相違候條此旨有違候事  
但本年七月迄ハ騷擾院設置スヘキ場所ニシテ其未タ設備セケル箇所ヘ適宜騷擾院ヲ設  
クヘシ

騷擾院及檢査所區畫表	
騷擾院	檢査所
山形騷擾院	組合町村
	南村山郡
	東村山郡
	山形市街

米澤	松嶺	酒田	温海	鶴岡				山形			
				田川湯	湯ノ濱	加茂	大山	鶴岡驅徴院	天童	上山	
赤湯	米澤驅徴院	松嶺驅徴院	酒田驅徴院	温海驅徴院	田川湯	湯ノ濱	加茂	大山	鶴岡驅徴院	天童	上山
全	東置賜郡	南置賜郡	飽海郡	飽海郡	全	全	全	全	西田川郡	東村山郡	南村山郡
官	高島村	赤湯市街	米澤市街	松嶺市街	酒田市街	温海湯村	田川湯村	湯ノ濱村	加茂村	大山村	鶴岡市街
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	街

三六三

新庄	谷地	楯岡	小出			新庄驅徴院
			馬場	小出驅徴院	小松	
新庄驅徴院	寒河江	谷地驅徴院	尾花澤	楯岡驅徴院	馬場	小出驅徴院
最上郡	西村山郡	西村山郡	北村山郡	北村山郡	西置賜郡	西置賜郡
新庄市街	左寒河江村	谷地	大尾花澤村	楯岡村	石馬那田村	小出村

(本)第百七十二号

十七年四月十五日

米澤警察署

本年乙第九号ヲ以驅徴院假檢徴所區畫制定布達相成候處高畑村並宮内村之儀ハ自費ヲ以テ檢徴所設置致度旨願出許可相成候間制規ノ通監督可致此旨申達候也  
 追テ宮内村檢徴所ハ所轄宮警察署ヨリ莅監候條爲心得此旨添達候也

谷地警察署

三六三

前全文 高畑村ヲ左澤村トス

宮 警 察 署

前全文 高畑村ヲ宮内村トス

○第五款 檢讞及驅讞院取締規則

(縣)乙第十号

十七年二月廿九日

檢讞取締規則別紙之通相定メ候條此旨布達候事

但驅讞院設置無之間ハ有毒ノ娼妓從前ノ居住宅ニ於テ治療スルコトヲ許ス

檢讞取締規則

第一條 此規則ハ娼妓ノ體毒ヲ檢査シ病毒ノ傳染ヲ豫防スル爲メニ設ケルモノトス

但檢讞所ノ區畫ハ本年本縣乙第九號達ニ從フ

第二條 檢讞ハ醫員ヲシテ檢査セシメ警察官吏之ヲ監督ス

第三條 檢査室ハハ醫員看護婦ノ外入ルヲ許サス

第四條 檢讞ニ係ル雜務ハ貸座敷取締之ヲ管理ス

第五條 檢讞定日ハ毎月五日十五日二十五日トス若シ正當ノ事故アリ當日ノ檢査ヲ受ケル能ハサレバハ十月二十日三十日ニ換フ

但出頭時限ハ五月ヨリ九月ニ至ル午前第八時十月ヨリ翌年四月ニ至ル午前第九時トス其檢讞所ヲ距ル一里以上ノ地ニアルモノハ一里毎ニ一時間ノ猶豫ヲ與フ

第六條 娼妓檢査ノ爲メ檢讞所ヘ出頭スルトキハ鑑札並ニ檢査證ヲ携帯スヘシ

但體毒檢査証ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ貸座敷取締ヲ經テ豫メ各娼妓ニ下付ス  
第七條 檢査ノ當日娼妓疾病ニ因テ出頭スル能ハサルトキハ貸座敷取締連印ノ上醫師診斷書ヲ添ヘ出頭時限前檢讞所ヘ届出可シ  
但本條ノ場合ニ於テハ警察官吏立合ノ上檢査醫員其家ニ就テ檢査ス

第八條 體毒感染ノ萌アルモノハ檢讞定日ヲ待タズ直チニ驅讞院中ニ設置アル檢讞所ニ出頭シ臨時檢査ヲ受クヘシ  
第九條 貸座敷取締ハ檢査済ノ上檢査證ニ體毒有無之印ヲ押シ娼妓ニ下付ス

但檢査證ヲ製シ置娼妓ノ寄留所氏名ヲ記載シ其氏名ノ頭ニ本條ノ如ク押印ス  
第十條 娼妓ハ檢査證ヲ得テ警察官吏ニ指出スヘシ  
第十一條 娼妓有毒ノ者ハ警察官吏直チニ其鑑札ヲ引揚入院セシム

第十二條 貸座敷取締ハ檢査當日娼妓體毒ノ有無及ヒ出席欠席ノ人員ヲ調査シ檢讞所々在地ノ衛生委員ニ届出可シ  
第十三條 娼妓此規則ニ違背シタルトキハ五圓以内ノ過料ニ處ス

第十四條 貸座敷營業者娼妓ト謀リ此規則ニ違背セシメタル者ハ五圓以内ノ過料ニ處ス  
第十五條 十五日以内ニ過料ヲ完納セサル者ハ金壹圓ヲ一日ニ折算シテ苦使ニ換フ其壹圓ニ滿タケルモノモ仍ホ一日ニ計算ス

體毒檢査證

縣國郡町村  
娼妓氏名

十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月

十二月  
明治 年  
檢 讞 所

(縣乙第十一號)

十七年二月二十五日

驅讞院取締規則別紙之通相定メ本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

驅讞院取締規則

- 第一條 驅讞院ハ娼妓ノ讞毒ヲ罹リタル者ヲ治療スル所トス  
但驅讞院ノ區畫ハ本年本縣乙第九號達ニ隨フ
- 第二條 院内ニハ醫員及事務係看護婦ヲ置クモノトス
- 第三條 院内ノ事務所ニ付テハ驅讞院所在地ヲ警察署又ハ分署ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第四條 經費ハ貸座敷取締ノ認可ヲ得テ支出ス可シ
- 第五條 藥價ノ半額及ヒ醫員ノ給料ハ官費ヲ以テ支給ス  
但毎月驅讞院所在地ノ警察署又ハ分署ヨリ仕拂フモノトス
- 第六條 入院中食料並ニ夜具日用品等ハ總テ自辨タルヘシ
- 第七條 娼妓ノ名簿ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ受取豫テ備ヘ置クヘシ  
但新ニ娼妓トナルモノ及廢業失踪死亡等ハ其時々警察署又ハ分署ノ報告ニヨリ加除スヘシ
- 第八條 院内ニ勤怠簿ヲ備ヘ置キ毎月驅讞院所在地ノ警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ

明治十八年五月乙  
第四一號  
付藥價ノ  
入下三字挿

第九條 親族ト雖モ猥ノコ入院患者ニ面會スルコトヲ許サス

但醫員又ハ事務係ニ於テ要用アル者ト認タルトキハ面會セシムルコトヲ得

第十條 退院者アルトキハ所轄警察署又ハ分署へ申報スヘシ

第十一條 臨時検査ノ節有毒ノ者アルトキハ聖職院所在地ノ警察署又ハ分署へ申報スヘシ

第十二條 醫員ヘ左ノ各項ニ從事スヘシ

一 毎日入院患者ヲ診察スル事

二 檢査所ニ派出シテ毒ヲ検査スル事

三 時々病室ヲ巡視シ患者ノ攝生及ヒ院中取締等ニ注意スル事

四 帳簿ヲ製シ置キ患者ノ病症經過及ヒ處方ヲ登記スル事

五 患者月表ヲ製シ毎月聖職院所在地ノ警察署又ハ分署へ差出ス事

六 事務係及ヒ看護婦ヲ指揮監督スル事

七 退院者ニ全治證明書ヲ與フル事

第十三條 事務係ハ左ノ各項ニ從事スヘシ

一 醫員ノ指揮ヲ受ケ院内ノ雜務ヲ調理スル事

二 院内ノ經費ヲ收支スル事

三 看護婦ヲ指揮監督スル事

四 院内一切ノ帳簿ヲ整理スル事

五 患者ニ面會チ乞フモノアルトキハ立會チ爲ス事

第十四條 看護婦ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 藥用攝生ヲ怠リ或ハ不行狀ノ者アルトキハ懇ニ説諭シ若シ聞入レサルトキハ醫員

又ハ事務係ニ申出ル事

二 診察ノ時ハ患者ニ附添フ事

三 病室ヲ掃除スル事

第十五條 入院患者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 入院中外出ハ勿論他ノ病室ニ入ル可カラズ

但父母ノ看護等ハ驅繼院所在地ノ警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ

二 醫員ノ許可セサル飲食物ハ一切用ユヘカラス

三 身体衣服ハ勉メテ清潔ニス可シ

四 入院中自費ヲ以テ別ニ看護婦ヲ雇フキハ醫員ノ許可ヲ受クヘシ

五 全治證明書ヲ得テ退院シタルキハ直ニ所轄警察署又ハ分署へ届出可シ

○第六款 娼妓毒患者表

(本)乙第貳百四拾三号

廿年八月八日

各警察署  
分署(貸座敷)  
アル

娼妓毒患者表別紙様式ニ倣ヒ七分ヨリ三ヶ月毎ニ差出ス可シ

但過十八年十九年及本年一月ヨリ六月マテノ分ヲモ別表ニ倣ヒ調製差出ス可

署長

明治何年  
自何月  
至何月  
娼妓徽毒患者表

何警察署(分署) 印

町村別	日別		何	月	何	月	何	月	合	計
	何	月								
何町(村)	娼妓	總數								
	患者	全治								
	娼妓	總數								
何町(村)	娼妓	總數								
	患者	全治								
	娼妓	總數								
總計	娼妓	總數								
	患者	全治								
	娼妓	總數								

全治

一娼妓ノ總數ハ其月盡日ノ現數ヲ記スヘシ

一患者及全治ノ欄ニハ其月盡日マテニ發生及全治シタル患者ノ數ヲ記スヘシ

一患者ノ増減ニ付特ニ意見(例ハ土地氣候ノ關係及ヒ氏ノアルトハ其旨ヲ記ス可シ)

○第七款 分署部内ニ係ル貸座敷娼妓處分並雜件

(本)乙第三百四十五號

二十年十月十八日

各警察署長

貸座敷娼妓犯則並ニ密賣淫犯者分署ニ於テ發覺シタルトキハ該分署長ニ於テ審問ヲ遂ケ處分案ヲ添ヘ書類ノミ本屬署長ニ送付シ本屬署長之ヲ査閱シ取調充分ナリト思料スルトキハ本屬署長ノ名ヲ以テ言渡書ヲ發送シ分署長ヲシテ之カ執行ヲ爲サシムヘシ

各警察署

今般丙第七十九号達ヲ以テ是迄ノ檢査醫廢セラレ候コ付テハ更ニ當署ヨリ可申付候條檢査所々在町村又ハ隣町ニ居住開業醫中ヨリ適當ノ者ヲ撰ミ相當人員可申出若シ郡醫ヲ除クノ外適當ノ者無之ニ於テハ郡長ノ承諾ヲ得テ其郡醫ノ中ヨリ撰ミ候テモ不苦候條至急取調具狀可致尤モ將來免ヲ要スル場合ニ於テモ及右手續ニ準シ具狀候義ト可心得此旨

申達候也

但所屬分署ノ分ハ其署ニ於テ取纏テ可申出候事

追テ檢査各目擔當スヘキ町村及ヒ娼妓員數ノ多寡參照ノ次第有之候條左記々載ノ例ニ照シ取調本文ト全時ニ可申出此旨添テ申達候事

記載例

何町(村)開業醫又ハ郡醫

何 某

一 何町村寄留娼妓員數

全 上

(本) 達

十八年二月九日

各 警 察 署

娼妓コトテ正當廢業届ヲ手續ヲ爲サズ逃走シタル者ハ歸宿又ハ取押ヘテ後娼妓取締規則

第十一條ニ照シ處分シ其逃走中ノ賦金ヲ追徴シ若シ納完スル能ハサル者ハ賦金徴収規則第十條ニ照シ處分スヘシ此旨申達候也

但明治十七年三月一日達逃走娼妓處分方心得ハ相廢ス

(本)乙第三百二號

二十一年八月七日

警 察 署 分 署

他管下人民ニシテ本縣下ニ於テ貸座敷及藝娼妓營業ヲ爲サントスルモノハ本籍官衙添翰

ノ有無ニ關セス可否可致事ニ被相定候條此旨心得ヘシ

○第三章 賦 金

○第一款 賦金徴収規則

(縣)乙第廿五号

十九年三月十三日

明治十八年五月廿一日 本縣乙第四十号布達賦金徴収規則左ノ通改正四月一日ヨリ施行ス

賦金徴収規則

第一條 貸座敷營業者ハ左ニ記載シタル賦金ヲ納ムヘシ

一 貸座敷一戸ニ付一ヶ月金貳圓

第二條 寄留藝娼妓一人ニ付一ヶ月金五拾錢

第三條 娼妓ハ左ニ記載スル等級ニ從ヒ賦金ヲ納ムヘシ

一 等 一ヶ月金貳圓貳拾五錢 揚代金五拾錢以上

二 等 全 金貳圓 全 金四拾錢以上

三 等 全 金壹圓七十五錢 全 金三拾錢以上

四 等 全 金壹圓五拾錢 全 金三拾錢未滿

第三條 前條等級ハ毎年三月又ハ寄留換テ爲シタル時ニ限リ變更スルコトヲ得

第四條 貸座敷營業者ハ寄留藝娼妓ノ屬籍氏名及ヒ娼妓ノ等級ヲ記載シタル帳簿ヲ製シ

置キ毎年四月三十日限リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ  
但藝娼妓ノ増減アルトキハ其都度届出ヘシ



明治廿一年五月廿九日  
 令第五十九號  
 更正  
 明治二十一年五月二十日  
 縣令第二十九號  
 以下追加

明治廿一年五月廿九日

第五條 賦金ハ翌月五日限り所轄警察署又ハ分署へ納ムヘシ但廢業シタルトキハ即納ス  
 第六條 娼妓等級ヲ變更シタル時ハ雖モ前等級ヲ以テ其月ノ賦金ヲ納ムヘシ  
 第七條 貸座敷營業者及娼妓ハ正當ノ事由アリ鑑札返納ノ上一月内引續十五日以上休業シタルモノハ賦金ノ半額全月休業シタルモノハ其全額ヲ免除ス  
 第八條 貸座敷營業者及娼妓ハ不慮ノ災害若クハ疾病ニ罹リ鑑札返納ノ上休業シ又ハ傳染病流行ニ際シ營業停止ヲ命ジタルトキハ日割ヲ以テ其休業中ノ賦金ヲ免除ス  
 第九條 貸座敷營業者及ヒ娼妓移轉引續營業スルモノハ前營業地ニ於テ其月ノ賦金ヲ納ムヘシ  
 但旅行中兩月ニ跨ルモノハ其翌月分ハ後營業地ニ於テ納ムヘシ  
 第十條 貸座敷營業者及ヒ娼妓賦金不納ノ者ハ直チニ營業ヲ禁止シ其不納金ハ營業ニ關スル財産ヲ公賣追徴スヘシ  
 但不納金ヲ完納スルモノハ更ニ營業スルコトヲ許ス親族其他ノ者代納シタルトキ亦全シ

○第一款 貸座敷娼妓興廢表及賦金收入表  
 (本)甲第三十八号 二十一年七月十七日 各警察署

貸座敷並娼妓興廢表全賦金收入表別紙之通改正ス

種別	貸座敷	娼妓		娼妓				名
		留	寄	合計	一等	二等	三等	
前月	員人越リヨ月							員人越リヨ月
新	者業就							者業就
他	者轉移リヨ月							者業復シ業停休間月前
他	者業復シ業停休間月前							者業復シ業停休間月前
勝	者業勝							者業勝
本	者業停休間月							者業停休間月
死	者業死							者業死
小	計							計
賦金	者ルム納ラ額全							者ルム納ラ額全
金	者ルム納ラ額半							者ルム納ラ額半
留	者ルム納ラ額半							者ルム納ラ額半
税	者ルム納ラ額半							者ルム納ラ額半
員人	計小員人							計小員人
前	員人越リヨ月							員人越リヨ月
増	員人越リヨ月							員人越リヨ月
減	員人越リヨ月							員人越リヨ月

明治 年 月分貸座敷並娼妓興廢表 警察署



三号ヲ以  
テ別表ス  
改正中

三三三

○第四章 興行

○第一款 興業取締規則

(縣)乙第九十七号 十五年十一月二日

明治十三年乙第二百六号ヲ以テ布達シ置タル興行場取締規則別紙之通改正候條此旨布達候事

興行場取締規則

第一條 左ノ興行ヲ爲シ觀料ヲ収ムル者ハ此規則ヲ遵守スヘシ

角力 寄席 手踊 諸觀物 劇場

第二條 興行ヲ爲サントスルキハ其前日迄ニ演劇ハ標ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

但其所作世安ニ妨害アリト認ムルキハ何時カリ警察官吏之ヲ停止スルコアルヘシ

第三條 興行場ニ關スル一切ノ事ハ座主其責ニ任スヘシ

第四條 觀客ノ安全ヲ保護スル爲メ機數ノ構造等ヲ堅牢ニスヘシ

第五條 晝興行時間ハ日出ヨリ日没迄トシ夜興行時間ハ日没ヨリ午後十二時ニ限トス

第六條 劇ハ勿論總テ場中ヲ清潔ニスヘシ

第七條 烈風ノ節ハ勿論平常ト雖トモ火ノ元厚ク注意スヘシ

第八條 鑑札ヲ所持セサル觀客ハ出席セシムヘカラス

第九條 觀客ヲシテ觀人休憩所ニ入ラシムヘカラス

明治十七年六月十一日  
第六十一号  
正  
但書追加  
及十五條  
六ノ兩條  
刪除

第十條 興行場ニ於テ種々ノ名義ヲ以テ觀客ニ出錢ヲ促カスヘカラス

第十一條 總テ猥褻ニ涉ル講談所作等ヲナスヘカラス

劇場 定座

第十二條 劇場定座ハ前數條ノ外左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第十三條 新タニ劇場定座ヲ設ケントスルモノハ近隣ノ承諾ヲ得郡役所ノ許可ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

但廢場又ハ改氏名等ノ節ハ本條ニ準シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第十四條 定座ハ空氣ノ流通善キ様適宜ニ窓扉ヲ設クヘシ

第十七條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セララルヘシ

○第二款 演劇興行逋稅者取締及無木戸興行取扱

(本)乙第七十五号 廿一年五月三日

明治廿一年度地方稅賦課方法第二十三條ニ依レハ演劇興行稅ハ開業届出ト同時ニ郡役所ニ上納スヘキ等之處該手續ニ依ラスンテ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ得タル儘直ニ興行シ逋稅ヲ計ル者往々有之趣ニ相聞候條右ハ稅金ノ納証ヲ檢閲シタル上認可ヲ與フヘシ

(本)乙第四百七十四号 廿一年十一月十九日

警察署

分署

各署

各署

各署

各署

明治十六年三月乙  
第十五號  
付更正

興行場取締規則第八條ニ鑑札ヲ所持セサル藝人ニハ出席セシムヘカラスト規定有之候處相撰ニシテ鑑札ヲ所持セサルモノハ弟子ノ名義ヲ以テ取組ヲ爲シ又俳優ニ於ケルモ同様鑑札ヲ所持セス舞臺ニ於テ藝ヲ演シ脱税ヲ計ルモノ有之哉ニ相聞ヘ候コ付自今取締向一層注意スヘシ

(本)達

十八年三月二十一日

各警察署

無不戸興行ノ届ヲ爲シ而シテ下足料或ハ敷物代油代化粧代其他種々ノ名義ヲ以テ觀客ニ出錢ヲ促カス者往々有之趣キニ相聞ヘ其興行場取締規則ニ依リ處分スヘキモノハ相當處罰スルハ勿論私コ木戸錢コ等シキ利益ヲ得地方稅ヲ規避スルモノハ即役所コ於テ當然興行稅ヲ徵收スヘキ筈ニ付其都度速カコ所轄郡役所ニ通知スヘキ儀ノ可心得此旨申達候事

○第三款 遊藝稼人取締

(本)乙第三百廿八号

廿年十月十日

警察署

警視廳コ於テ遊藝稼人ニ鑑札ヲ下付スルハ其効力東京府内ニ限ルコ以テ若シ府外コ於テ遊藝免許或ハ身分ヲ證明スルモノ處分方別紙寫ノ通同廳第一局ヨリ照會有之候條此旨心得ヘシ

第四三号

廿年十月六日

警視廳第一局

當廳ニ於テ鑑札下付致シ有之候遊藝稼人之儀昨今種々ノ弊害ヲ生シ一時府下ヘ寄留名義ノ手續ヲ爲シテ營業鑑札ヲ請願シ其鑑札ヲ下付スルハ直ニ他府縣ヘ出稼キ更ニ歸府スルコトナク固ヨリ其籍爲サシメタルモノモ一時手續料ヲ取リ右等ノ手續ヲ爲シタルモノニ付其本人ノ所在一向判明セス終ニ逃亡ノ姿ト相成實ニ不都合ノ次第ニ付目下大ニ取締中コ有之且ツ本廳ニ於テ下付シタル鑑札ハ當府内限リノ免許證ニシテ素ヨリ他府縣ニ毫モ其効ノ及フヘキモノニ無之候處往々當廳ノ鑑札ヲ以テ其營業免許或ハ其身元ヲ證明スルモノ有之趣相聞ヘ右ハ全ク前條ノ手續ニ依リ下付シタル鑑札ニシテ是等ヲ證明スヘキモノニ無之候條右條之モノ有之候ハ、精數御取糺ノ上ハ御縣ノ御法規ニ依ルモノト存候條此段爲念及御照會置候也

(本)乙第三百六十二號

二十年十月二十八日

警察署

本年乙第三百二十八號ヲ以テ警視廳ヨリ遊藝稼人ニ鑑札下付スルハ其効力東京府内ニ限ル旨全廳ヨリ照會越シタルヲ以テ爲心得相達置候處右ハ相當ノ税金ヲ上納セサルノミナラス所在不明ニシテ殆ント逃亡全檢ノ婆ニ相成候モノ歟又ハ右ノ如キ點ニ不審アルモノ徘徊候節ニ限リ夫レ々々取調相當ノ手續ヲ盡サシムル歟或ハ全廳ヘ照會スルハ勿論ニ候

得共全ク税金ヲ免カレンカ爲メ諸方徘徊スル等ノ不審ナキモノニシテ正當ノ遊藝人ニ及ハサルハ全廳ヨリ照會ノ精神ニ有之殊ニ内務省ヨリ發布セラレタル營業雜種兩稅則中備考ニ一徘徊相撲其他遊藝人等ハ本籍府縣ニ於テ課稅スヘキモノニ付一時甲縣ヨリ乙縣ニ至リ營業スルモノハ別段課稅ヒサルモノトスト有之右之趣意ニ基キ彼レ是レ扁解誤謬等ノ取扱無之様可致此旨心得ヘシ

○第五章 乞丐及僧侶托鉢

○第一款 乞丐其他惡漢取締

(本)達

廿年五月十二日

各警察署長

乞丐其他惡漢者取締ノ義ハ過日會議ノ節示達致シ置候得共多少其處分ヲ爲サ、レハ到底免除シ出ヘカラサル次第ニ付左ノ取扱大意ヲ以テ夫々處分可致此旨内達ス

取扱大意

一乞丐者

右種類ノ内壯年者体格強壯ニシテ相當稼業ヲ爲シ得ヘキニ怠惰放逸ニ流レシモノト認ムルカ如キ又浮浪者士族輩其他容裝ヲ僧侶杯ニ變シ強力ヲ受クルモノ、如キハ刑法違警罪第四百廿五條第十二項ニヨリ相當處分スヘシ尤モ癡疾者ノ如キハ管轄外ヘ押送スルカ又ハ適宜ノ措置ヲ爲スヘシ

一強賣者

右ハ老幼癡疾者ヲ問ハス本縣違警罪第一條第三項ニヨリ處分スヘシ

一遊藝人

右種類ノ内祭文讀道樂法師ヲヨボクリ大黒舞ノ如キモノヲ認メダラハ免許ヲ受ケシヤ否ヲ糾シ無免許ノモノアラハ本縣違警罪第一條第十三項ニヨレカ若クハ刑法第四百廿五條第十二項ヲ適用スルカ適宜處分スヘシ

右取扱タル分ハ總テ別表ノ如ク毎月々末其月分ヲ取調<sup>月報</sup>翌月七日迄ニ本部ヘ差出スヘシ本部ニ於テハ再犯調査ノ爲メ各署分ヲ取調メ一表ニ製シ各署ヘ通知スルニ依リ簿冊ニ綴リ置キ他日ノ参照ニ供スヘシ

向年何月中乞丐其他取扱報告表何警察署

縣名	郡名	町名	身業	取扱	區別	姓	名	年	齡
山形	村山	上山	平民	說諭放逸	乞丐	何	誰	七	十
宮城	伊達	仙臺	士族	科料手錢強賣	賣	々	々	廿	五
福島	信夫	福嶋	平民	拘留三日遊藝	藝	々	々	三	十
右警察署ノ分何人									

分署ノ分モ前ニ同ノク區分シテ一表ニ作ルヘシ  
(本)百二十五號 十八年四月九日

警察署

乞食取替ノ儀ニ付其本籍ノ知レタルモノハ本籍ニ遞送シ本籍ノ知レサルモノハ處分ノ上  
最寄監獄署ニ交付スヘキ旨明治十六年十一月警部會議ニ於テ協議決定ノ次第モ有之候處  
往々履行セラル向モ有之趣ニ相聞ヘ不都合ニ候條自今此度注意シ取締上緩慢無之様所屬  
分署ニモ嚴重可通達此旨申達候也

但若沿道各縣ニ於テ遞送ヲ受ケサルトキハ本縣外ニ於テ放遣スヘシ  
(本)達 十八年八月十五日

各署長

乞食處分ノ儀ニ付豫テ申達置タル縣界ニ於テ放遣スヘキモノハ徒歩旅行ニ差聞サルモ  
ニ限リ候儀ニテ疾病等ニ罹リ歩行自由ナラザルモノ、如キハ明治七年九月二十日內務省  
甲第二十四號達等ノ次第モ有之傳遞放遣スルノ限リニ無之速カニ其地戶長ヘ通知シ相  
ノ保護ヲ受ケシムヘキ儀ニ付心得違ヒ無之様可致此旨申達候事

○第二款 僧侶托鉢

(本)第九號 十九年一月十二日

警察署

近來托鉢之風甚タ猥リニ相成毎戶門ニ立テ布施ヲ求メ物ヲ得サレハ去ラスト曰ツカ如キ

モノ往々相見ヘ宛モ乞丐ノ類シ不都合ニ候條總テ明治十四年八月內務省乙第三十八號達  
ニ依リ取締上一層注意可致且當期節寒念佛修行ト唱ヘ立廻ルモノモ右同様取締可致此旨  
申達候事

○第四編 衛生

○第一章 會議及事務

○第一款 衛生協議會規則

(縣)號外 十六年九月五日

衛生課

警察本署

郡役所

本年四月廿七日號外ヲ以テ相達候衛生諮問會ヲ衛生協議會ト改稱規則左之通改定候條此  
旨相達候事

衛生協議會規則

第一條 本會ハ各郡衛生上ノ氣脈ヲ通シ該事務實施ノ順序等ヲ協議スルモノトス

第二條 本會ハ毎年二回三月ノ開キ一回ハ本廳ニ於テシ一回ハ各郡ニ於テ輪番ヲ以テ  
之ヲ開ク其日數ハ七日以内トス

但臨時至急ヲ要スル事件アルキハ特ニ開設スルコトアルヘシ

第三條 開會ノ期日ハ其都度縣廳ヨリ之ヲ達スヘシ

明治十九年三月十九日  
外務省  
正六條ヲ改ス

三八四

第四條 本會ノ議題ハ縣廳ヨリ之ヲ發ス但シ時宜ニ依リ會員中ヨリ提出スルコトヲ得

第五條 本會ハ會員半數以上出席セサレハ當日ノ會ヲ開カス

第六條 會員ハ各郡衛生主務ノ郡吏一名及開會地各警察署衛生主務ノ警部一名ヲ以テ之

レニ充ツ但時宜ニ依リ警察本部各警察署衛生主務ノ警部ヲ召集スルコトアルヘシ

第七條 會長ハ衛生課長ヲ以テ之ニ充テ副會長ハ會員中互撰投票シテ之ニ充ツ

第八條 書記ハ衛生課員ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 本會ハ衛生課員衛生警察官衛生主務郡醫衛生館醫戶長衛生委員開業醫ノ傍聴ヲ許ス

但時宜ニヨリ傍聴ヲ禁スルコトアルヘシ

第十條 本會ニ於テ建議セントスルモノハ會長ノ名ヲ以テ縣令ニ開申スヘシ

第十一條 議事細則ハ會員ニ於テ編製シ縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス

○第一款 衛生諸費ニ關スル事務管理

(本)甲第五十四号 二十一年八月三十日

各課署

來ル明治二十二年度ヨリ衛生諸費ニ關スル事務管理方之儀ニ付左ノ通相達セラレ

官房第六七號 二十一年八月二十九日 警察本部

來ル明治二十二年度ヨリ檢査及氷雪屠牛牛乳檢査ノ諸費ニ關スル事務ハ第二部衛生課ニ

テ管理スヘシ

○第二章 清潔法

○第一款 清潔法施行委員設置概則

(本)乙第七十號 二十年五月十一日

各署

清潔法施行委員設置概則別紙ノ通定メラレタリ此旨通達ス

達應第三一號 二十年五月六日

警察本部

清潔法施行委員設置概則左之通相定ム

清潔法施行委員設置概則

第一條 清潔法實施ノ爲メ縣廳内ニ臨時清潔法施行本部ヲ置キ郡役所若クハ警察署内ニ其

支部ヲ置ク

第二條 本部委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス警部長衛生課長保安課長警部警部補衛生課員

第三條 支部委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス郡長警察署長郡警部警部補町吏郡町村醫

第四條 本部ノ長ハ警部長トシ支部ノ長ハ郡長トス本部長事故アル時ハ衛生課長代テ其

事務ヲ處理シ支部長事故アル時ハ警察署長代テ其事務ヲ處理ス

第五條 本部委員ニ充ツヘキ警部警部補ハ警部長直ニ之ヲ撰舉シ衛生課員衛生課長之ヲ撰舉シ支部委員ニ充ツヘキ郡吏町吏郡町村醫ハ郡長之ヲ撰舉シ警部警部補ハ警察署

三八五

明治廿一年四月廿三日  
房第廿三號  
衛生課長  
安課長ノ下  
四等ノ挿入  
全上衛生  
課員ノ下  
四字ヲ刪



除明治廿一年四月廿二日  
官房第五二號  
衛生課員  
館下衛生員  
字ヲ删除

長之ヲ撰舉シ都テ本部長ヲ經由シテ具申スヘシ

第六條 本部長ハ管内ノ總部ヲ統理シ一般ノ委員ヲ指揮監督ス支部長ハ各其部内ノ委員ヲ指揮監督ス

第七條 本部及支部ノ委員ハ各部長ノ指揮ニ從ヒ諸務ヲ掌ル

第八條 處務ノ細則ハ別ニ本部長ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

○第二款 清潔法施行本支部處務細則

(縣)清第一号

二十年五月廿四日

清潔法施行本支部

清潔法施行本支部處務細則左之通相定ム

清潔法施行本支部處務細則

第一條 清潔法施行本支部文書取扱文案起草職員心得等ハ廳中處務細則ニ準據スヘシト雖正可成簡易ノ取扱ヲ要ス

第二條 本部委員ハ二名以上支部委員ハ少ナクモ一名部中ニ在テ諸務ニ從事スヘシ

第三條 本部委員ハ本部長ノ指揮ニ從ヒ支部管内ヲ巡視シ清潔法實施ノ適否周到ヲ觀察スルコトアルヘシ

第四條 支部長ハ便宜部内施行方面ヲ區畫シ其擔當委員ヲ定ムヘシ

第五條 支部委員ハ支部長ノ指揮ニ從ヒ施行スヘキ町村ヲ巡視シ實施ノ周到スルヲ要ス但自宅邸内ニ入ルトキハ其家人若クハ地主ヲ立會ハシムルモノトス

第六條 一町村若クハ數町村ノ費用ヲ以テ施行スヘキ事業ハ支部委員ニ於テ管理スヘシ  
第七條 清潔法施行スヘキ場所概テ左ノ如シ

- 一 人家稠密ナル場所
- 一 傳染病發生ノ虞アル場所
- 一 公衆ノ交通頻繁ナル場所
- 第八條 清潔法施行スヘキ事項概テ左ノ如シ
  - 一 家庭庭園及河海濱岸ノ不潔掃除ノ事
    - 但寢室庭園浴場ノ如キハ最モ注意ノ事
  - 一 井水汚濁又ハ臭氣ヲ發スルカ若クハ不潔物混入ト認ムルモノ浚渫ノ事
  - 一 井水ノ覆蓋ナキモノ及井戸側等破損シタルモノ修理ノ事
  - 一 井水ヲ排除スヘキ下水溝ナキモノ新設ノ事
  - 一 井水及飲用水ヲ隔ル三間以内ノ地ニ在ル厠廁芥溜等移轉ノ事
  - 一 井水及飲用水又ハ温泉場ニ於テ魚鳥ノ骨腸其他汚穢物ノ洩瀉投棄等禁止ノ事
  - 一 飲用ニ供スヘキ河泉ニ汚水又ハ汚穢物混入シ若クハ混入ノ虞アリト認ムル場所防止ノ事

- 一 官衙學校病院湯屋寄席遊藝場貸座敷旅舍劇場温泉場湖烹店其他群集スヘキ場所厠廁芥溜排水等一層注意ノ事
- 一 下水樋下水溝ノ破損及正水路ノ壅塞スル部分修理及浚渫ノ事

一 水路へ塵芥ヲ投棄シ及水路浚渫ノ汚泥塵芥路傍ニ堆積スルモノ禁止ノ事

一 汚水ヲ路上ニ洒注スルモノ禁止ノ事

一 人家接近ノ場所ニ塵芥肥料ノ堆積スルモノ禁止ノ事

一 芥溜肥溜ノ破損及散出ノ虞アルモノ修理及掃除ノ事

一 芥溜肥溜ニ雨水ノ滲入スルモノ及汚汁ノ地中ニ浸入スルモノ防止ノ事

一 牛馬禽獸飼養場掃除力及汚穢物投棄ノ事

一 屠場肉店魚市場製造場魚干場麩屋等ノ如キ汚汁ヲ散シ腐敗物ヲ生スルノ恐アルモノハ其掃除投棄方一層注意ノ事

第九條 支部委員ハ日々清潔法實施シクル箇所及清潔法ノ種別ヲ明ニシ日表ヲ製シ支部長ノ檢閲ヲ受クヘシ

但支部所在地外ニ在ル支部委員ハ一週間毎ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 清潔法施行猶豫ヲ請フモノアルトキハ其申狀ヲ調査シ支部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條 支部委員ハ前年虎列刺病發生及傳播ノ原由ヲ詳ニシ清潔法實施ノ緩急ヲ調査スヘシ

第十二條 支部ニ於テハ飲料又ハ用水ニ供スヘキ河水線路及ヒ供給ノ町村ヲ取調置キ傳染病發生ノ際傳播ノ恐ラキ流下ノ供給ヲ禁スルノ豫備ヲ爲スヘシ

第十三條 支部ニ於テハ豫テ帳簿ヲ製シ置キ清潔法施行ノ區域及町村名擔當委員ノ氏名等詳細登錄スヘシ

本表差  
期限ハ  
治年七  
期日ヲ  
七前月  
年翌月  
ハ限差  
日ハキ  
スヘキ  
トニ定  
リマコ

第十四條 支部ニ於テハ清潔法ヲ實施シタル實況ヲ詳悉シ別ニ施行成績表ヲ製シ一ヶ月毎ニ本部ニ報告スヘシ

第十五條 一町村若クハ數町村内ニ傳染病患者隔離所ヲ豫定スヘシ

第十六條 每町村ニ虎列刺病患者看護人及運搬夫ヲ豫定スヘシ

第十七條 避病院及臨時火葬場位置未定ノ町村ハ之ヲ豫定スヘシ

第十八條 本支部備品及消耗品ハ各應衛供給ノ内ヨリ流用スヘシ

第十九條 支部ニ於テ清潔法實施上必用ノ物品コシテ新調ヲ要スルトキハ町村衛生費ノ内ヲ以テ支辨スヘシ

第二十條 委員ノ旅費日當ハ一般ノ定則ニ據ルヘシ

清第二號 二十年七月十四日

清潔法施行支部處務細則第十四條ニ據テ調製スル施行成績表ハ自今別紙雛形ニ倣ヒ御差出有之度候也

各支部長宛  
(別紙雛形略ス)

明治何年何月分

清潔法施行成績表

何郡清潔法施行支部

實 施 行 況	警 察 署								管 轄 區		
	合 計	分 署				分 署				町 村 名	種 別
		場	役	場	役	場	役	場	役		
											總 戶 數
											抱 厨 浴 場 下 水 管 ノ 修 理 及 掃 除 ヲ 命 ジ セシ
											團 圍 ノ 改 造 移 轉 及 汲 取 ヲ 命 セシ
											芥 溜 肥 溜 ノ 修 理 及 掃 除 ヲ 命 セシ
											家 屋 庭 園 其 他 掃 除 ヲ 命 ジ セシ
											飲 料 水 及 用 水 ノ 修 理 浚 ヲ 命 セシ
											該 官 衙 學 校 等 其 他 團 圍 芥 溜 ノ 掃 除 ヲ 命 セシ
											牛 馬 舍 禽 獸 飼 養 場 及 屎 肉 ノ 汚 穢 掃 除 ヲ 命 セシ
											他 其
											計 小

○第三款

便所改良

(縣)内達第百三十八号

十九年七月十四日

警察本署

便所改良之義ニ付飽海東西田川三郡長へ別紙ノ通及訓示候條此旨心得へシ  
右相達ス

衛第二千七百七十九号

其地方ニ於テハ從來ノ習慣ニ依リ人家ノ表入口ニ便所ヲ設ケルモノ不揚哉ニ候處右ハ暑  
氣ニ向ヒ殊ニ惡臭外ニ發散人身ノ健康ヲモ妨害シ自然傳染病ノ媒介トモ可相成實ニ忽緒  
ニ付スヘカラサル儀ニ有之本年ノ如キハ專ラ虎列刺病像防ニ注意スヘキ折柄ニ付所轄警  
察署へ協議ノ上先以テ市街地ノ如キ人家稠密ノ場所ニ於テ右入口ニ設ケアルモノハ可成  
此際相當ノ場ニ移設セシメ漸次改良ノ方案ヲ設クヘシ  
右訓示ス

(本)第貳百四十一号

十九年七月十六日

鶴岡 酒田 警察署

便所改良ノ義ニ付別紙寫ノ通訓示相成候條人家稠密之場所ニ於テ右入口ニ設ケアル便所  
ハ此際適宜無害ノ場所へ移設セシムヘシ此旨申達候事  
別紙ハ内達第百廿八号ナルヲ以テ略之

○第三章

屠獸場及屠獸肉

○第一款 屠獸場及屠獸取締規則及施行手續

(縣)縣令第十二號

二十一年三月七日

屠獸場及屠獸取締規則左ノ通相定明治二十一年四月一日ヨリ施行ス

但明治十七年五月乙卯四十號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

屠獸場及屠獸取締規則

第一條 屠獸場ハ食肉販賣ノ爲メ牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス其場外ニ於テハ一切屠殺スルコトヲ許サス

第二條 屠獸場ハ一市街又ハ數町村ヲ合シテ一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ限リ之ヲ許可ス

第三條 屠獸場ヲ開設シテ屠殺ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ノ願書ニ其構造場所ノ圖面及四隣地主ノ承諾證ヲ添ヘ戶長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署(分署所轄ハ該分署ヲ)ニ願出許可ヲ受クヘシ

但落成ノ上其旨届出檢査ヲ受クルニアラザレハ使用スルコトヲ許サス

第四條 屠獸場ヲ賣買讓與スルトキハ双方連署ノ上所轄警察署ニ届出ヘシ

第五條 屠獸場ハ人家飲料水及國縣里道ヲ距ル凡ソ六十間以外ニシテ衛生上都ヲ障害ナキ地ニアラザレハ許可セズ

第六條 屠獸場ノ構造ハ左ノ各項ニ遵アヘシ

- 一 屠獸場ノ周圍ハ土手又ハ塹堀ヲ設クル事
- 二 屠獸場内ニハ屠室ヲ設クル事

三 屠室ノ周圍ハ板圍ト爲シ地盤ハ切石若シハ漆喰又ハ厚板ヲ以テ汚汁ノ滲透セサル様敷設シ且汚物ノ溜壺ニ通スル溝ヲ設ケ適宜ノ勾配ヲ付スル事

四 血液其他汚物ノ溜壺ハ不透透質ノモノヲ以テ屠室外ニ設ケ臭氣ノ漏洩セザル様覆蓋子設クル事

第七條 屠獸場ノ構造ヲ變更セントスル者ハ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ落成ノ上ハ第三條但書ニ全ク

第八條 屠獸場ニハ第二號書式ノ標札ヲ掲クヘシ

第九條 屠獸場ハ屠殺ヲ終リタル毎ニ洒掃シ臟皮骨及血液汚水汚物ノ類ハ之ヲ取除クヘシ

第十條 屠獸場ニ於テ屠殺ヲ爲サントスルキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

但此場合ニ於テハ獸醫ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一條 屠肉ニハ檢印ヲ受クヘシ檢印ナキ屠肉ハ屠場外ニ運搬スルコトヲ許サス

第十二條 屠獸檢査員ニ於テ病獸又ハ不良ノ肉ト認ルトキハ其屠殺又ハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十三條 屠獸場持主ハ帳簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

- 一 屠獸ノ種類及頭數
- 二 牝牡ノ區別及年齡

三 屠殺年月日

第十四條 廢業改氏名又ハ轉居セシトキハ五日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十五條 正當ノ事故ナクシテ屠獸場ヲ閉鎖シ又ハ第三條願濟ノ日ヨリ三十日ヲ過キ落  
成ニ至ラサルモノハ屠獸場開設免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十六條 獸類ノ屠殺料ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ其増減ヲ要スルト  
キ亦全シ

第十七條 正當ノ事故ナクシテ屠殺ヲ拒絕シ又ハ屠殺料ノ外濫リニ金錢ヲ請求スヘカラ  
ス

第十八條 第一條第三條第四條第七條第九條第十條第十一條第十六條第十七條ニ違背シ  
タル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 第八條第十三條第十四條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
附則

從前許可シタル屠獸場ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出檢査ヲ受クヘシ其構造本  
則ニ適合サルモノハ期限ヲ定メ改修ヲ命スルコトアルヘシ

第一号書式

屠場開設ノ儀ニ付願

官有地又ハ私所有地

何處何郡何町何番地何字

一何地何反何畝歩

(官有地ナレハ一般官有地拜借ノ例ニ因ルヘシ)

屠獸場開設所

右之場所ニ於テ屠獸場開設致度候間御開届被成下度依テ圖面(四隣地主承諾證)相添此段  
奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

借地ナルキハ地主ノ連署ヲ要ス又數人共同ニテ開設セントスルキハ共同者連署ヲナシ

且管理者ヲ定ムヘシ

何警察署長

官氏名殿

第二号書式

○官 屠獸場
住所身分 氏名

豎三尺

横八寸

數人共全ノトキハ外何名ト記ス

警察署

屠獸場及屠獸取締規則施行手續左ノ通相定ム

屠獸場取締規則施行手續

第一條 規則第三條ノ願出アリタルトキハ構造及場所ノ圖面ヲ精査シ規則ニ抵觸ノ虞ナシト認ムルトキハ仍ホ實地ニ臨ミ檢査ヲ遂ケ之ヲ許スヘシ

但落成ノ届出アリタルトキハ更ニ臨檢ノ上其使用ヲ許スヘシ

第二條 規則第七條ノ願出アリタルトキハ規則ニ抵觸ノ虞ナキヤ否ヲ精査シ之ヲ許スヘシ

但落成ノ上ハ前條但書ニ全シ

第三條 規則第十條ノ届出アリタルトキハ檢査ノ時日ヲ告知シ警察官吏及獸醫立會ノ上屠獸場ニ於テ檢査ヲ爲スヘシ

但屆書ニハ屠獸ノ種類牡牝ノ區別年齡産地畜養ノ場所等ヲ記載セシムヘシ

第四條 屠肉其質ト認ムルトキハ檢査簿ノ印ヲ捺シ販賣ヲ許スヘシ

第五條 屠獸檢査員ニ於テ病獸又ハ不良ノ肉ニシテ衛生上有害ト認メタルトキハ屠殺又ハ販賣ヲ禁止スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ屠獸又ハ屠肉ノ處置方ヲ指揮スヘシ

第六條 警察官定ハ屠殺ヲ終リタル後洒掃シタルヲ以テ退散スヘシ

第七條 規則第十六條ノ届出アリタルトキハ其適否ヲ精査シ適當ト認ムルトキハ認可ヲ與フヘシ

但獸肉販賣人共同シテ屠獸場ヲ開設シ屠殺料ヲ受ケサル者ハ之ヲ定ムルニ及ハス

第八條 規則第三條第七條ノ願書ヲ分署ニ於テ受理シタルトキハ此取扱手續第一條第二條ニ據リ檢査ヲ遂ケ意見ヲ付シ本屬署ニ進達スヘシ

第九條 警察署分署ニ於テハ第一号書式ノ名簿ヲ製シ増減變更アル毎ニ之ヲ加除スヘシ

第一号書式 用紙美濃野紙

官有地(某私有地)

何處何郡何町何番地何字

一何地何反何畝何歩

屠獸場

住所身分

氏名

年月日許可

○第二款

獸肉販賣取締規則及施行手續

縣令第十三号

二十一年三月七日

獸肉販賣取締規則左之通相定メ明治二十一年四月一日ヨリ施行ス

但明治十三年十二月乙第百二十七号布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

獸肉販賣取締規則

第一條 獸肉販賣ノ業ヲ營メントスル者ハ所轄警察署(分署所轄ハ該分署ヲ經由スヘシ)以下做之ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 獸肉販賣營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

(牛(馬)(羊) (豚)(野獸))	肉販賣營業
何縣何國何郡何町何番地	氏名
横七寸	縦二尺五寸

第三條 牛馬羊豚ハ屠獸場ニ於テ検査済ノモノニアラサレハ販賣スルヲ許サズ

第四條 獸肉ハ異種ノ肉ヲ混合シタルモノ及不良ノモノヲ販賣スルヲ許サズ

第五條 獸肉販賣營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシムルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ願出左ノ雛形ノ木札ヲ製シ記入及烙印ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ

但行商證ハ貸與スルヲ許サズ

第何号	年月日
-----	-----

表

(牛(馬)(羊) (豚)(野獸)) 行商證	裏
何縣何國何郡何町何番地	何警察署
獸肉販賣人何某	分署
賣子氏名	烙印
横二寸	縦三寸

第六條 卸賣人ヨリ仲買人小賣人又ハ仲買人ヨリ小賣人ニ獸肉ヲ賣渡ストキハ其種類斤

量年月日及卸賣人仲買人ノ氏名ヲ記シタル証書(通帳ヲ以テ代用)ヲ交付スヘシ

第七條 獸肉販賣營業者ハ適宜組合ヲ設ケ互撰ヲ以テ正副取締人ヲ置キ總テ營業上ニ關

スル取締ヲナスヘシ

但正副取締人ヲ撰舉シタルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 組合ニ於テハ營業上ニ關スル規約ヲ設ケ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 免許證行商證ヲ紛失毀損スルカ若シハ改氏名轉居シタルキハ所轄警察署ニ再渡

又ハ書換ヲ願出ツヘシ

但行商證ノ分署許可ニ係ルモノハ其分署ニ願出ツヘシ



第十條 廢業セントスルモノハ所轄警察署ニ届出免許證ヲ返納シ行商證ハ消印ヲ受クヘシ

但行商證ノ分署許可ニ係ルモノハ其分署ノ消印ヲ受クヘシ

第十一條 警察官吏ハ臨時店舗ニ臨ミ獸肉及帳簿ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條 第一條第三條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 第二條第五條第六條第九條第十條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(本)甲第十一號

二十一年三月三十日

警察署

獸肉販賣取締規則施行手續左ノ通相定ム

獸肉販賣取締規則施行手續

第一條 規則第一條ノ願出アリタルトキハ調査ヲ遂ケ不都合ナシト認ルトキハ第一號書式ノ免許證ヲ下付スヘシ

但分署ニ於テ願書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ付シ本屬署ニ進達スヘシ

第二條 規則第五條ノ願出アリタルトキハ調査ヲ遂ケ不都合ナシト認ルトキハ記入及烙印ノ上下付スヘシ

第三條 規則第七條但書ノ届出アリタルトキハ其適否ヲ精査シ不都合ナシト認ルトキハ第二號書式ノ認可狀ヲ下付スヘシ

第四條 規則第九條ノ願出アリタルトキハ其紛失毀損ニ係ルモノハ更ニ相渡シハ製作

セシメ記入及烙印改氏名轉居等ハ書換ノ上下付スヘシ

第五條 警察官吏ハ臨時店舗ニ臨ミ又ハ行商者ニ就テ獸肉ノ長否ヲ検査シ食用ニ害アル

カ若クハ異種ノ肉ヲ混合シタルモノト認ムルキハ販賣ヲ禁止スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ獸醫ヲ立會ハシムルコトアルヘシ

第六條 警察署分署ニ於テハ獸肉販賣營業人及行商者ノ名簿(諸營業臺帳)ヲ製シ増減變更アル毎ニ之ヲ加除スヘシ

第一號書式

免許證

用紙厚紙

縦五寸  
横三寸五分

何警察署ノ頭字ヲ用フ

何第何号

表

牛(馬)(羊)  
(豚)野獸

肉販賣營業

何縣何町何郡何村何番地

華士族平民

氏名

明治何年何月何日

山形縣 何 警察署 印

第二号書式

認可狀 用紙小奉書四ツ切

獸肉販賣營業人

氏 名

右獸肉販賣營業人何組取締人タルヲ認可ス

年 月 日

何 警 察 署

印

○第三款 屠牛員數調

(縣)財第二千五百九十六號 十七年七月三日

警察本署

屠牛頭數取調之難有之ニ付自今其月許可致候屠牛頭數並屠割人名共取調翌月三日迄其郡役所へ通知候儀各警察署及分署へ達方可取計此旨相違候事

(本)乙第三十七號

二十一年一月二十四日

各 警 察 署

其署及分署部内屠牛ノ員數本月ヨリ每一ヶ月ニ區分シ翌月五日迄其地差立差出スヘシ

○第四章 牛乳及氷雪

○第一款 牛乳販賣取締規則及醫員證明

縣乙第六十六號 十八年七月十三日

牛乳販賣取締規則左ノ通相定メ來ル八月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

牛乳販賣取締規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳汁ヲ搾取リ販賣セントスルモノハ公衆衛生上障害ナキ地ヲ撰ミ

第一號書式ニ據リ畜養場ノ圖面 人家又ハ溝渠ノ距離及ヒチ添へ所轄警察署又ハ分署へ願出ク鑑札ヲ受クヘシ

但畜養場ヲ移轉スルトキハ又本條ノ手續ニ據リ願出ツヘシ

第二條 乳牛ハ系統善良体格強壯且シ肺結核肺癆炭疽熱口瘡蹄瘡諸肝臟病等ノ如キ血質

ニ毒物ヲ遺留スヘキ疾病ノ素質ナキ者ニ限ルヘシ

但第二號書式ニ據リ獸醫獸醫ナキ者ニ證明書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第三條 乳牛死亡又ハ疾病ニ罹リタルキハ第二号書式ニ據リ獸醫獸醫ナキハ地ニ郡檢地ニ郡檢ノ檢察書ヲ添

但病牛全癒ノ後更ニ乳牛ニ供セントスルモ亦第二條但書ノ手續ニ據リ届出ツヘシ

第四條 牛乳ヲ受賣セント欲シ搾取營業者ト結約シタル者ハ第三号書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第五條 牛乳搾取營業人及受賣人廢業又ハ轉居スルキハ第四号書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

但本人死亡シタルトハ其親戚ヨリ届出ツヘシ

第六條 牛乳ヲ配達スルモノハ第五号雛形ニ據リ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ烙印ヲ請ケ乳汁容器ニ付シ携帯スヘシ

第七條 乳牛傳染性ノ疾病ニ罹レリト認ムルキハ直ニ他所ニ移シ健牛ト隔離スヘシ

第八條 乳牛ハ不食ノ食物及飲用水ヲ以テ畜養スヘカラス

第九條 乳牛ハ分娩後一週間ヲ經過スルコト非ラサレハ其乳牛ヲ販賣スヘカラス

第十條 牛乳ハ新鮮純良ノモノニ非ラサレハ販賣スヘカラス

但警察官吏臨時検査スルコトアルヘシ

第十一條 乳汁容器及漏斗柄杓等ハ鉛銅等ノ人身ニ害ヲ來スヘキ物質或ハ竹木等液体ノ竄透スヘキ物質ヲ以テ製造シタルモノヲ用フヘカラス

但容器ハ必ス蓋ヲ用ヒ且ツ使用ノ都度洗淨スヘシ

第十二條 搾取者ハ豫テ帳簿ヲ製シ日々得タル處ノ乳量ヲ詳細記載シ置クヘシ

但警察官吏臨時検査スルコトアルヘシ

第十三條 牛疫流行ノ際ハ其病勢ニ依リ乳汁ノ販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第十四條 此規則ニ違背シタルモンハ違警罪ヲ以テ處分シラルヘシ

第一號書式

牛乳搾取營業願

何郡何町何番地  
何郡何町何番地  
一幾坪

右地所ニ於テ乳牛幾頭ヲ畜養シ乳汁搾取營業仕度候間別紙畜養場圖面ヲ添ヘ此段奉願候也

何郡何町何番地族籍  
氏名 印

衛生委員  
氏名 印

山形縣何警察署(何分署)長  
官氏名 宛

(戸長與書)  
第二号書式

四〇五

乳牛届

新タニ購入又ハ  
病牛全癒ノトキ

一乳牛産所 幾頭 年月日ヨリ乳牛ニ供ス(新タニ購入)

死亡又ハ疾  
病ノトキ

一全上 全上 何々ニ付斃死

一全上 全上 何病ニ罹リタルニ付  
乳牛ニ供セス

右御届申上候也

年月日

何郡何町番地族籍

牛乳搾取營業人 氏名 印

衛生委員 氏名 印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

(戸長與書)

第三号書式

牛乳受賣届

私義

今般牛乳受賣營業仕候間搾取營業人連署ヲ以テ此段御届申上候也

年月日

何郡何町何番地族籍

牛乳受賣人 氏名 印

全上 氏名 印

全搾取營業人 氏名 印

衛生委員 氏名 印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

(戸長與書)

第四號書式

廢業(轉居)届

從來何郡何町何番地ニ於テ牛乳搾取營業罷在候處今般都合有之廢業<sup>私義</sup>或ハ何郡何町何仕  
候條此段御届申上候也

何郡何町番地族籍

牛乳搾取營業人 氏名 印

四〇七

衛生委員

氏名印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

(局長與書)

第五號雛形

表面

許免牛乳配達之証  
 印檢  
 411  
 411

何郡何町何番地  
 牛乳搾取營業人氏名  
 全上

堅三寸五分

十八年七月二十日

郡役所

(本)縣丙第百九十號  
 本年乙第六十六号布達ニ據リ獸醫又ハ郡醫ニ於テ調製スヘキ証明書及檢案書ノ儀別紙書式ニ據リ記載セシムヘシ  
 右相違候事

證明書 第二條但書ノ届書

何郡何町何番地住

何誰家畜

何地産

一何毛何歳乳牛

右乳牛 月 日 檢診ノ處体格強壯ニシテ内外ノ諸侯絶テ疾病ノ徴ヲ見ス依テ搾乳ニ供シ障害ナキモノト認定候也

獸醫(郡醫)

氏名印

年月日

證明書 第三條但書ノ届書

何郡何町何番地住

何誰家畜

何地産

一何毛何歳乳牛

右乳牛 月 日 檢診ノ所病症全癒今後搾乳ニ供シ障害ナキモノト認定候也

獸醫(郡醫)

氏名印

年月日

檢案書

何郡何町住

何誰家畜

何地産

一何毛何歳乳牛

右乳牛 月 日 ヲリ何病ニ罹リ斃死セシ 或ハ何病ニ罹リ自今乳牛ニ供シ難キ又ハ何々徴候ヲ呈スルニ付今後週間乳牛ニ供シ難キ

モノト診察候也

獸醫(郡醫)

年月日

氏名印

○第二款 氷雪販賣取締規則

縣令第四十七號

廿年四月廿八日

氷雪販賣取締規則左ノ通相定

但明治十三年<sup>十二月</sup>乙第二百十五号布達廢止ス

氷雪販賣取締規則

- 第一條 販賣ヲ目的トシテ氷雪ヲ製造若クハ貯藏セントスルモノハ第一号書式ニ據リ其場所ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ其地戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出免許ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ免許ヲ得タル場所ニ於テ製造若クハ貯藏シタル氷雪ハ其販賣前第二號書式ニ依リ其檢査ヲ受クヘシ
- 但精良ノモノニハ檢査證ヲ付與シ不良品ハ棄却セシム
- 第三條 卸賣小賣又ハ行商ヲ爲セントスルモノハ第三号書式ニ據リ其地戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ
- 第四條 卸賣小賣者ハ第四號書式ノ看板ヲ掲クヘシ
- 第五條 行商者ハ所轄警察署ヨリ鑑札ヲ受ケ行商中常ニ携帯スヘシ
- 第六條 製造場並ニ貯藏場ハ常ニ清潔ヲ要ス若シ不潔コソク有害ノ虞アル時ハ修理又ハ

場所替ノ命スルヲアルヘシ

第七條 氷雪ハ時々檢査ヲ爲シ不潔又ハ有害ト認ムル時ハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルヲアルヘシ

- 第八條 氷雪製造貯藏及販賣免許ノ期限ハ毎年十一月一日ヨリ翌年十月三十一日迄トス
- 第九條 此規則第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス其第四條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上十拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 第一號書式

氷(雪)製造(貯藏)願

一製造場

郡町字番地

向<sup>ハ</sup>氷<sup>ハ</sup>河泉ノ名ヲ記シ雪<sup>ノ</sup>氷(雪)製造(貯藏)ノ方法ヲ詳記シ且地形ノ概略ヲ附記ス

右場所ニ於テ販賣ノ爲メ氷(雪)製造(貯藏)仕度別紙圖面相添此段奉願候也

何郡<sup>田</sup>番地<sup>田</sup>族籍<sup>田</sup>職業

年月日

氏名印

署長宛

前書之通相違無之ニ付キ與印候也

右町村

第二號書式

氷(雪)検査願

郡町字番地

一製造  
一貯藏場  
右製造(貯藏)ノ儀像ヲ御許可相成候所今般販賣仕度候ニ付御検査被爲下度此段奉願候也

何郡町番地族籍職業

氏名印

年月日

署長宛

第三號書式

氷(雪)卸賣(小賣)行商願

郡町字番地

一製造  
一貯藏場  
製造貯藏人ニ於テ卸賣小賣行商ヲ兼ルカ又ハ卸  
一貯藏人ノ氏名 卸賣小賣人ニ於テ行商ヲ兼ルトキハ其旨ヲ附記ス

何郡町番地族籍職業

氏名印

年月日

署長宛

前書之通相違無之候也

右町村

戸長 氏名 印

第四號書式

木札堅二尺三寸 横七寸

○何地氷(雪)卸賣(小賣)所

郡町字番地 貯藏販賣人 氏名

全上

何郡何町村何誰貯藏

○何地氷(雪)小賣所

郡町字番地 小賣人 氏名

○第三款 氷雪販賣取扱手續及製造貯藏検査程度

(本)甲第九號

二十年五月六日

各課署

四二四

冰雪販賣取扱手續冰雪製造貯藏法并検査程度別冊ノ通相定ム

冰雪販賣取扱手續

第一條 冰雪ヲ製造若クハ貯造センコトヲ願出タル時ハ警察官吏及警察醫(南村山郡ハ)濟生館醫(濟生館醫)ヲ派遣シ製造及貯藏ノ方法場所並水質ノ良否ヲ検査シ無害ト認ルトキハ許可スヘシ

第二條 製造若クハ貯藏シタル冰雪販賣前検査ヲ願出テタルトキハ検査上ノ飲料ニ適スル者ト認マル時ハ左ノ証書ヲ付與スヘシ

冰雪検査證

何府何縣何區何町何番地族籍

當時何縣何國何郡何村何番地寄留

製造貯藏人 何 某

何郡何町何村何地

製造貯藏水(雪)

本品ヲ檢スルニ其性質純良コシテ飲料ニ供シ無害ナルモノト認定ス

年月日

警察醫 何 某 印

第二條 製造貯藏場並冰雪ノ検査了リタル時ハ其狀況及有害無害ヲ詳悉シ仍ホ左ノ検査成績表ヲ作り警察署長ニ差出スヘシ

冰雪検査成績表

何郡何町何村何地

製造貯藏水(雪)

製造貯藏人 何 某

外狀	格魯彌
反應	砂酸
臭	有機物
味	生体検査的

年月日

警察醫 何 某 印

第四條 冰雪ヲ製造貯藏若クハ卸賣小賣行商ヲ願出テタル時ハ其冰雪ハ販賣許可ヲ得ルモノナルヤ否ヤヲ精査スヘシ

第五條 行商者ニハ左ノ雛形ニ準シ鑑札ヲ付與スヘシ

第何号	年月日
水(雪) 行商鑑札	郡町村字何地製造貯藏水(雪)
郡町村番地族籍 行商人 何 某	製造貯藏人 何 某
署印	烙印

二寸三分

四一五



第六條 製造貯藏場ハ時々係員ヲシテ検査ヲ遂ケ若シ有害物混入ノ虞アルトキハ修理又ハ場所替ヲ命スヘシ

但有有害物混入スルトキハ飲料ノ爲メ販賣ヲ差止其旨本部ニ報告スヘシ

第七條 卸賣小賣行商者ニ於テ販賣スル氷雪ハ店頭又ハ行商者ニ就キ時々係員ヲシテ検査ヲ遂ケ有害物混入スル時ハ其販賣ヲ差止現品ヲ棄却セシメ且製造貯藏場ヲ検査スヘシ

第八條 行商者ニ對シ常ニ鑑札ヲ携帯スルカ否ヤチ検査スヘシ

第九條 製造貯藏卸賣小賣行商ノ名簿ヲ調製シ且異動アル毎ニ加除整理スヘシ

氷雪製造貯藏法並検査程度

第一條 氷雪ヲ製造若クハ貯藏セント欲スル者ハ其水質地質ヲ撰擇スルヲ要ス  
ヨリ聚積スル沼池或ハ木葉ノ堆積腐敗スルノ地ヲ避ルカ如シ殊ニ河川上流ニシテ會テ町村ヲ通過セサル場所ヲ撰ムヲ良トス  
第二條 純良ノ氷ヲ得ント欲セハ一旦濾過セシ水ヲ以テ凝結セシムルヲ良トス其濾過器ノ裝置ニ於ケル桶或ハ適宜ノ箱ヲ以テシ其底面ニハ木炭或ハ骨炭ノ塊片ヲ置キ上層ニハ細砂ヲ充テ濾過ノ用ニ供スヘシ

第三條 飲用ニ供スル氷雪検査程度ハ左ニ記載スル各項之試験ニ適セサルヘカラス

- 一 氷雪之溶解シタル者ハ無色透明且多量ノ塵埃ヲ含ムヘカラス
- 二 溶解氷雪ハ無味無臭ナラサルヘカラス
- 三 溶解氷雪ハ其十萬分中一、〇以上ノ格魯爾ヲ含ムヘカラス

- 四 溶解氷雪ハ其十萬分中〇、五以上ノ硝酸ヲ含ムヘカラス
- 五 溶解氷雪ハ其十萬分中〇、〇三乃至〇、〇五以上ノ「アンモニヤ」ヲ含ムヘカラス
- 六 溶解氷雪ハ其十萬分中〇、〇三乃至〇、〇五以上ノ亞硝酸ヲ含ムヘカラス
- 七 溶解氷雪ハ其十萬分中〇、五乃至一、〇以上ノ有機質ヲ含ムヘカラス
- 八 溶解氷雪ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ有害ノ虞アル有機生体ヲ存スヘカラス

第五章 飲食物及用水

第一欸 飲食物及玩弄品着色料取締規則

(縣乙第七十四號)

十四年十一月二十四日

飲食物及玩弄品着色料取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

飲食物及玩弄品着色料取締規則

第一條 飲食物及玩弄品(小兒ノ手遊ニ)ノ着色料ハ無毒ノ品ニアラザレハ用ユヘカラス  
第二條 左ニ列記スル品ニ限リ飲食物及玩弄品ニ着色スルヲ得

赤色之部

ベンガラ(一名鉄丹即第二酸化鐵)〇猩脂(ユージニールヲ以テ製スル者)〇茜草〇蘇木〇日本紅(笹紅小町紅ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スル者)

黄色之部

黃柏〇カフタン〇山梔子〇ズミ並煉ズミ(サワ梨ノ皮ヲ以テ製スルモノ)〇鬱金粉(鬱金砂ハ毒アリ用フヘカラス)

免許鑑札雛形

第 號	飲食物 何色着色	郡町村番地
右 免許 候 事		姓 名
明治 年 月 日		山 形 縣

五寸八分  
飲食物ノミ着色スルヲ免許スルトキハ單ニ飲食物ト記シ又玩具品ノミ着色スルヲ免許スルトキハ單ニ玩具品ト記シ飲食物及玩具品トモニ着色スルヲ免許スルトキハ雛形ノ

青色之部

日本藍(藍玉藍紙ノ類ニテ藍葉ヲ以テ製スル者)○青粉(野茶ヲ以テ製スルモノ)○抹茶

紫色之部

紫根

黑色之部

木炭○油煙○烏梅

金銀色之部

金箔○銀箔

第三條 左ニ列記スル品ニ限り玩具品ニ着色スルヲ得

胡粉○炭酸石灰○鎮鎗箔○銅箔○錫箔(鎮鎗箔以下三種嬰兒ノ紙ル玩具品ニハ用フヘ

カラス)○角粉○石膏○砥ノ粉地ノ粉○黄土○代赭石○麒麟竭○玉墨

第四條 第二條第三條ノ品ハ單味或ハ調合シテ用ユルモ妨ケナシ

第五條 前條掲載ノ品目ヲ除クノ外從來着色シ來ル者及斯クニ着色セント欲スルモノハ

現品(廉價ノ分ハ四十目位)ヲ添ヘ町村戶長衛生委員及郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ願出ツヘ

第六條 第五條ノ手續ニ據リ願出ツルモノハ試験ヲ遂ケ其無毒ナルモノヘハ左ノ免許鑑

札ヲ交付スヘシ

如ク並記スヘシ

第七條 營業人廢業スルカ又ハ死亡スルカ或ハ他管へ轉籍スルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 營業人代替又ハ管内轉居ハ免許鑑札書換ヲ願出ツヘシ又ハ盜難遺失及ヒ燒亡等ニ罹リシルトキハ速ニ届出更ニ鑑札ヲ請求スヘシ

第九條 此規則ニ背キタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

○第二款 飲料清水取締規則

(縣)乙第四十二号

十六年七月五日

飲料井水取締規則左之通相定メ來ル八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

飲料井水取締規則

第一條 此規則ハ公衆ノ健康ヲ保護スル爲メ設クルモノトス

第二條 井水ヲ新設スルキハ石蓋或ハ桶版等ヲ用非汚水滲透ノ患ナキ様構造スヘシ

但在來ノ井水ニシテ汚水滲透ノ患アルモノモ亦本條ニ準シ改良スヘシ

第三條 邸内ニ井水ヲ所有スル者ハ戶外見易キ所ニ目標ヲ掲グヘシ

但邸外ノ井水ハ適宜ノ目標ヲ掲グヘシ

第四條 井水ニハ下水路ヲ設クヘシ

但土地ノ實況ニ依リ下水路ヲ設クル能ハサルキハ井水ヲ距ル二間以上ノ處ニ下水溜ヲ設ケ時々汲取ルヘシ

第五條 井水ハ少クモ一年一度浚疏スヘシ

第六條 引井水ニシテ汚濁シ若クハ臭氣ヲ含ミ其原因密カナラサルキハ郡役所へ願出謝状ヲ請フヘシ

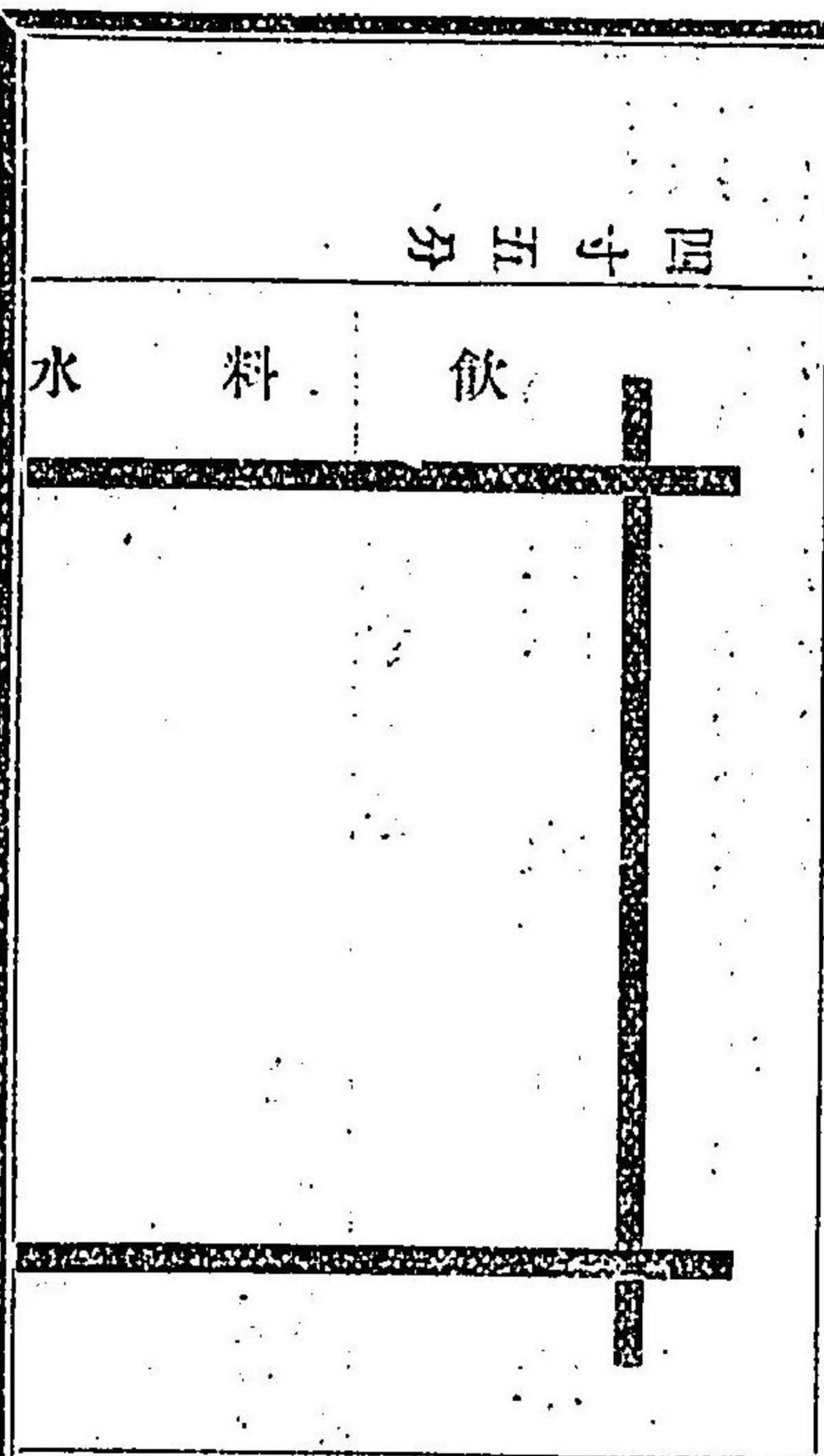
第七條 井水ヲ距ル三間以内ノ地へ厠屋及肥塚肥溜等ヲ設クヘカラス

但在來ノ厠屋等本條ニ抵触スルモノハ改良セシムルヲアルヘシ

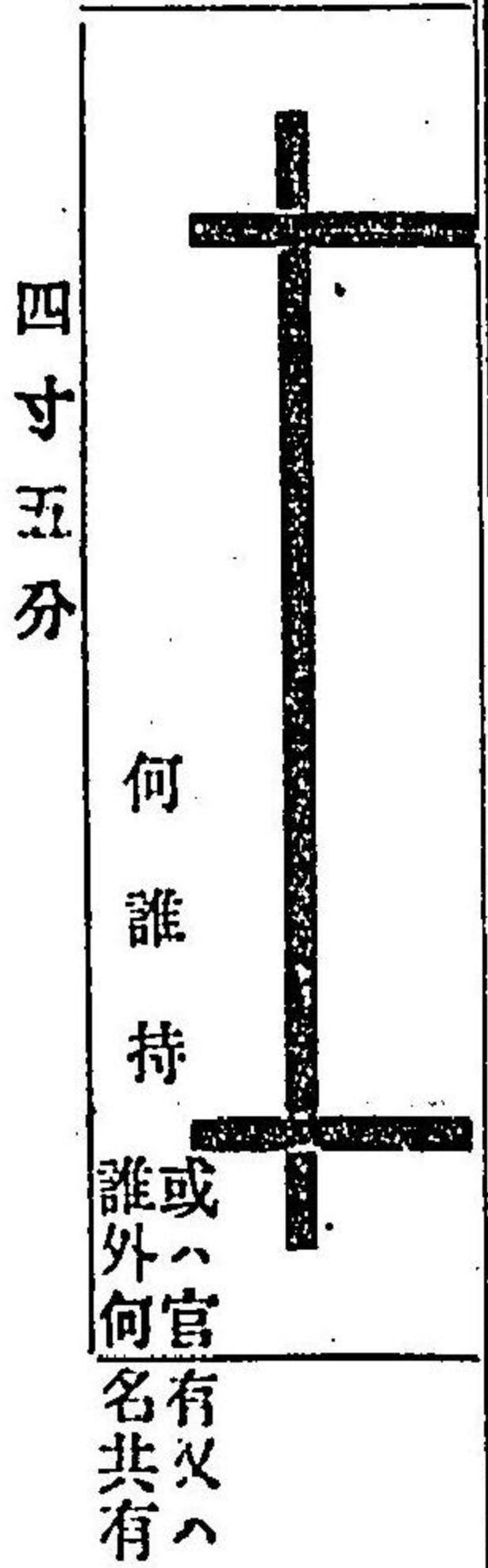
第八條 井水接近ノ處ニ於テ襦袢便器其他汚穢ノ物品ヲ洗滌シ又ハ鳥獸魚虫ノ骨肉等ヲ棄ツヘカラス

第九條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

井水木標雛形



殿箇ヲ有スルキハ其數ヲ井桁内ニ記入スヘシ



四寸五分

何誰持  
或ハ官有又ハ  
誰外何名共有

○第二款 水路取締規則及水路掃除人設置並負擔心得

(縣)乙第七十四號 十五年七月十七日

水路取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但施行期限ハ別コ告示スヘシ

水路取締規則

第一章 總則

- 第一條 水路取締ハ人身ノ健康ヲ保護スル爲メ設クルモノトシ
- 第二條 水路ハ飲水用下水ノ三種ニ區別ス
- 第三條 區別ノ方法ハ從來ノ慣行ニ依ル  
但實況ニ從ヒ舊慣ニ拘ハラス更ニ區別ヲ爲スコトアルヘシ
- 第四條 飲水用下水ヲ問ハス兩側コ石甃又ハ木柵版築ヲ構造スヘシ  
但水路ノ實況ニ依リ本條ニ據ラサルモ妨ケナシ

明治十六年一月十六日  
第九百一十六號  
全條以テ第七千六百一十一號  
全條以テ第七千六百一十二號  
全條以テ第七千六百一十三號  
全條以テ第七千六百一十四號  
全條以テ第七千六百一十五號  
全條以テ第七千六百一十六號  
全條以テ第七千六百一十七號  
全條以テ第七千六百一十八號  
全條以テ第七千六百一十九號  
全條以テ第七千六百二十號

第五條 濫リニ水行疎通ヲ妨ケヘカラス

第六條 水路ニハ柵ヲ設ケ塵芥等自然各自持場ニ停滯スルトキハ直チニ之ヲ除却スヘシ  
水下ニ流送ス可ラス

但實況ニ依リ柵ヲ設ケサルモ妨ナシ

第七條 水路取締ニ屬スル細目方法ハ其地ノ便宜ニ從ヒ關係人民ノ協議ニ任カス

第二章 飲水

第八條 飲水ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ指稱ス

第九條 飲水ハ必ス清淨ナル井泉ヲ用フルモノトシ清淨ナル井泉無之地ハ第十條ヨリ第十

十四條迄ノ條項ニ據ルヘシ

第十條 飲水路ニハ其關係人民ニ於テ標札ヲ建設シ之ヲ明示スヘシ

但飲水ヨリ用水ニ分派スル場所ニハ特ニ雨水區分ノ標札ヲ建設スヘシ

第十一條 飲水路ノ區域内ニ於テハ物品ヲ洗滌シ又ハ塵芥其他ノモノヲ捨ツ可ラス

第十二條 飲水路ノ浚疎ハ其關係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ毎年春秋兩度トス

第十三條 飲水ニハ用水及下水ヲ混入ス可ラス

第十四條 飲水路區域内ニ於テ水車ヲ設ケ或ハ漁獵等ヲ爲ス可ラス

第三章 用水

第十五條 用水ハ物品ヲ洗滌シ水車ヲ設置スル等其他ノ用ニ供スルモノヲ指稱ス

第十六條 用水路ノ區域内ニ於テ糞尿ヲ投棄シ或ハ糞尿ニ穢レタルモノヲ洗滌シ又ハ塵

明治十六年一月十七日  
第九號  
第七號  
第九號  
第七號  
第九號  
第七號  
第九號  
第七號  
第九號  
第七號

其其他汚水 浴湯及庖厨ニ使用シテ流スヘカラス

第十七條 用水路ノ浚疏ハ其關係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ毎年春秋兩度トス

第十八條 用水路關係人民ニ於テ特ニ雨水路區分ノ標札ヲ建設スヘシ

第十九條 用水コトハ下水ヲ混入スヘカラス

第四章 下水  
第二十條 下水ハ衆人ノ使用シテ汚水及汚穢物混淆セシ惡水ヲ指稱ス

第二十一條 下水路ノ區域内ニ於テ水雪塵芥等ヲ投棄シ流通ヲ妨シヘカラス

第二十二條 下水路ノ浚疏ハ其係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ毎年四月六月九月十一月トス

第二十三條 人家接近ノ下水コソテ其臭氣健康ヲ害スル恐アルモノハ必ス蓋ヲ爲スヘシ

第二十四條 下水路各自持場内ニ於テ停滯漫溢スコトアル時ハ浚疏ノ時期ニ拘ハラス必ス疏通浚整スヘシ

第二十五條 使用シ了ル汚水ヲ下水ニ注ク能ハサル場所ニハ必ス下水溜ヲ設ケ之ニ注下シ時々汲取投棄スヘシ

(縣)丙第二號 十七年一月五日

明治十五年本縣乙第七十四號ヲ以テ水路取締規則布達及置候ニ付テハ左ノ心得ニ照準シ

郡役所 戶長役場

掃除人ヲ設ケ取締向一層行届候條可致此旨相達候事

水路掃除人設置及負擔心得  
第一條 掃除人ハ一町村又ハ數町村ニ二名以上ヲ設置シ水路取締規則第二條ニ掲グル水路ヲ掃除スルモノトス

第二條 掃除人ハ町村會又ハ聯合町村會ニ於テ人員ヲ定メ戶長ニ於テ相當ノモノヲ申付クヘシ

第三條 掃除人ハ其町村戶長ニ於テ管理ニ衛生委員之ヲ監督ス

第四條 掃除人ハ時々其負擔スル所ノ水路ヲ巡視シ塵芥淤泥等ヲシテ停滯ノ憂ナカラシムヘシ若シ數人ヲ要ヒサレハ浚整スル能ハサル場合ニ於テハ戶長ヘ申出ヘシ

第五條 水路ヨリ浚ヒ揚ケタル塵芥淤泥等ハ其町村内妨害ナキ場所ヘ運搬シ濫リニ路傍ニ堆積ヘカラス

第六條 掃除人ハ水路取締ニ關スル條件ニ附シ其責ヲ負フモノトス

第七條 掃除人ノ給料ハ其町村内ノ協議ニ任ス

第六章 墓地埋葬

第一條 墓地及埋葬取締規則及細則違犯者具申

(縣)乙第三十七號 十八年五月十八日

明治十七年十二月十二日 乙第百三十三号布達墓地及埋葬取締規則左ノ通改定ス  
但明治十三年十一月十一日 乙第二百十二号及本年三月十九日 乙第十九号布達ハ廢止ス

右布達候事

墓地及埋葬取締細則

- 第一條 墓地及火葬場ハ一町村若クハ數町村ニ各一ヶ所ヲ設ク宗旨又ハ種族異ナリト雖  
凡別ニ之ヲ設クルヲ許サス  
但市街地ニ於テ寺院舊境内ヲ區畫シ墓地ト定メタルモノ又ハ村落ノ實況ニ依リ止ム  
ヲ得サル場合ニ於テハ増設ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二條 墓地及火葬場ノ區域ヲ變更又ハ増設セント欲スルキハ其事由ヲ詳記シ縣廳ヘ願  
出ツヘシ
- 第三條 墓地及火葬場ハ其町村ノ共葬ニ充ツヘキモノト雖モ其町村ニ於テ死去シタルモ  
ノハ何人チ間ハス埋葬又ハ火葬スルコトヲ得
- 第四條 墓地及火葬場ハ海稅地ヲ撰ビ之ヲ設置スヘシ若シ適應ノ地ナク止ムヲ得サルト  
キハ耕宅地ノ内ヘ設クルコトヲ得  
但海稅地ト雖トモ水源ニ屬スル山林原野ノ如キハ之ヲ許サス
- 第五條 墓地及火葬場ノ徑界ニハ樹木ヲ植ヘ其區域ヲ明瞭ニスヘシ
- 第六條 墓地及火葬場ハ時々洒掃又ハ修繕ヲ加ヘ不潔ナカラシムヘシ
- 第七條 墓地及火葬場ノ管理者及其方法ハ關係人民ニ於テ適宜辯定シ其族籍氏名住所管  
理ノ方法等戶長役場及所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第八條 墓地及火葬場ノ管理者ハ其繪圖面及帳簿(墓籍簿)ヲ調整シ第一号書式ニ據リ埋

明治十九年三月乙卯  
第三十號  
項更正

葬火葬又ハ埋葬ノ年月日時及族籍氏名等ヲ詳記シ認許(埋葬)證ヲ割印シ置クヘシ

墓地及火葬場ノ管理者ハ認許(埋葬)證ノ裏面ニ埋葬火葬又ハ埋葬ノ年月日時ヲ記載シ

三ヶ月以内所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ請ケ之ヲ戶長役場ニ差出スヘシ

第九條 死刑ニ處セラレタル者及行旅死亡人等ノ内引取人ナキモノハ埋葬スル場合ニ於

テハ司獄官又ハ戶長ヨリ直ニ其管理者ヘ埋葬證ヲ交付スヘシ

第十條 死者ノ家人(家人ナキハ親)ハ第二号書式ニ據リ死亡届書ヲ調製シ左ノ各項ニ

照準死亡證書ヲ添ヘ戶長役場ヘ差出シ其認許證ヲ請ケ之ヲ管理者ニ出シ而ル後埋葬又

ハ火葬ヲ執行スヘシ  
但火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルキハ更ニ其認許證ヲ請クヘシ

- 一 病死ハ第三号書式ニ據リ其主治醫ノ死亡證
- 二 妊娠四ヶ月以上ノ死體分娩ハ第四号書式ニ據リ醫師又產婆ノ死産證
- 三 醫療ヲ受ケヌシテ死亡シ又ハ醫師產婆ノ手ヲ經タル死胎分娩ハ第五号書式ニ據リ  
最寄醫師ノ檢按書
- 四 變死ニ係ル者ハ檢視官ノ檢印ヲ爲シタル醫師ノ檢案書
- 五 囚徒ノ死体又ハ死刑ニ處セラレタル遺体ヲ引取埋葬火葬(埋葬)セントスルトキハ  
司獄官ノ檢印ヲ爲シタル獄醫ノ証書寫
- 第十一條 改葬ヲ爲サントスルモノハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ  
請クヘシ

但警察署又ハ分署所轄外ノ墓地ニ改葬スル者ハ改葬地ノ警察署又ハ分署ヘ許可證ヲ寫ラテ直ニ届出ツヘシ

第十二條 墓地ヲ新設スルハ國縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ル凡六十間以上飲用水ニ距ル凡七間以上ニシテ高燥ナル地ヲ撰フヘシ

第十三條 墓地ハ一丘ニ付平均五坪ヲ以テ定度トスト雖トモ土地ノ實況ニ依リ伸縮スルコトヲ得各自ノ位置區域等ハ管理者ト共有者トノ協議ニ任カス

但死刑ニ處ヒラレタルモノ又ハ行旅死亡人等ト各墓地ノ一隅ヲ區畫シ其内ニ遷埋スルヘシ

第十四條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ但土地ノ實況ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ又ハ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スル如キハ此限リコアラズ

第十五條 墓地ノ内ニハ從前現存スルモノ、外一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス

從前現存スル墓地内ノ樹木ハ根リニ伐採スルヲ許サズ若シ伐採セザルヲ得サル場合ニ於テハ縣廳ノ許可ヲ請フヘシ

第十六條 墓地ハ埋葬ノ外他用ニ充ツルヲ得ス

第十七條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ニ距ル百二十間以上ノ地ヲ撰フヘシ

第十八條 火葬場ハ必ズ火爐煙筒高サ三及周圍ニ牆壁ヲ設クヘシ

但人家遠隔ナル山林原野ノ如キハ適宜ノ構造ヲ爲スモ妨ケナシ

第十九條 火葬ノ時間ハ日没後ニ限ル若シ止ムヲ得ザル事情アルキハ所轄警察署又ハ分署ヘ許可ヲ請フヘシ

明治十九年三月乙  
第三十号  
ハヲ二十  
ニ條削除

署ヘ許可ヲ請フヘシ

第二十條 火葬場ハ火葬ノ外他用ニ充ツルヲ得ス

第二十一條 碑表ヲ建設スルトキハ其繪圖面及碑文ヲ明記シ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ請フヘシ

但死者ノ氏名族籍官位勳爵法號年月日及建設者ノ氏名等ヲ刻スルニ止ルモノハ本條ノ限リニアラス

第二十三條 傳染病死屍ノ埋葬火葬等別ニ例規アルモノハ此規則ニ據ルノ限リコアラズ

第二十四條 此規則第三條第五條第八條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第廿條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

(第一號舊式) 甲

何町何村何町外何ケ町何町何寺  
何町何村何町外何ケ町何町何院何墓  
何町何村何町外何ケ町何町何墓

國 郡 町 村  
字 番

一 墓地反別畝歩

内

一 番 此番號ハ墓地區畫ノ繪圖ニ照シ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

○ 數町村共有ノ時ハ何町村ト肩書ス

一 町何町何村何町外何ケ町何町何村何町何寺何町何院何墓  
○ 一町村ノ内分裂スルモノハ何町村何誰外何名共有ト記スヘシ

一何歩

。戸長認許證ト割印スヘシ

何年月日時

印埋葬

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

全上。全上

一全上

全上。全上

何誰持

何誰父母(兄弟姉妹)

何誰亡

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

一火葬地反別款歩

何年月日時

火葬

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

一町(何町外何ヶ町)共有

。一町村ノ内分裂スルモノハ

何町村何誰外何名共有ト記スヘシ

何町村何誰父母(兄弟姉妹)

何誰亡

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

全上

右ハ何月何日午前第何時死去候條醫師證書(検案書)相添此段御届申上候也

既婚有配偶或ハ未婚

何年何ヶ月

何府縣何國何郡何町何番地族籍  
。寄留者ハ當時何郡何町何番地  
何誰方ハ寄留ト記スヘシ  
何某父母兄弟妻子  
各本人ノ現業ヲ記スヘシ營ヘ  
職業ハ無職家族ナレハ戸主何業ト  
記スヘシ

氏名



年月日

戸長宛

(第二号書式)乙

死産届

右届主

氏名印

何府縣何國何郡何町番地族籍何某妻(何姉妹)

寄留者全前

何 九 九

何年何ヶ月

右ハ妊娠何ヶ月ニシテ死胎分娩候條別紙醫師ノ檢案書(醫師死産證)相添ヘ此段御届申上候也

右届主

氏名印

戸長宛

(第三号書式)

死亡證

何府縣何國何郡何町番地族籍

寄留者全前

何某父母兄弟妻子

職業全上

氏名

何年何ヶ月

病名

死ニ至ルノ因由年月日時死亡

右之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町番地

施治醫 氏名 印

(第四号書式)

死産證

何府縣何國何郡何町番地族籍何某妻(何姉妹)

寄留者全前

何 九 九

何年何ヶ月

公(私)生妊娠何ヶ月ニシテ男(女)死胎分娩

ニタ子三ツ子四ツ子等ハ男何人女何人ト記スヘシ

右之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町番地

醫師(産婆) 氏名 印

(第五号書式)甲

死亡檢案書

何府縣何國何郡何町何番地族籍

○寄留者全前

何某父母兄弟妻子

職業。全上

氏名

何年何ヶ月

病名年月日時死亡

○死ニ至ル原由ヲ簡短ニ記スヘシ

右檢案候處頭書之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町何番地

醫師 氏名 印

年月日

(第五号書式)乙

死産檢案書

何府縣何國何郡何町何番地族籍何某妻何姉妹

○寄留者全前

何 たり

何年何ヶ月

公(私)生妊娠何ヶ月ニシテ男(女)死胎分娩

○死ニ至ルノ原由ヲ簡短ニ記スヘシ

○ニマ子三ツ子及四ツ子等ハ男何人女何人ト記スヘシ

右檢案候處頭書之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町何番地

醫師 氏名 印

年月日

(本)達

十八年一月廿九日

各警察署

墓地及埋葬取締細則第十二條ニ違背シタル戸長ハ官吏懲戒例ニ依リ處分可相成儀ニ有之候條違犯者有之節ハ速ニ具申スヘシ此旨申達候也

○第二款 墓地及埋葬ニ關スル雜件

十九年五月十一日

(縣)甲第三号

明治十八年五月乙第三十七号布達墓地及埋葬取締細則第十二條及第十七條ニ抵觸スル距離内ノ地所ニ自今家屋建設ヲ許サス

但本文距離内ニ建築ヲ必要トスル場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ願出ツヘシ

右布達ス

十九年七月二十七日

各署 新庄署

明治十八年五月乙第三十七号布達墓地及埋葬取締細則改正第八條中三ヶ月以内トアルハ一ヶ月ヲ以テ三十日トス三ヶ月即チ九十日以内ノ精神ニ有之候條處分上區々ナラサル様爲

心附此旨申達候事

(縣)乙第十九号

十八年三月十二日

墓地樹木ノ從來現存セシモノヲ伐採セントスルハ其事由ヲ詳記シ衛生委員連署ノ上郡役所ヲ經テ縣廳ノ許可ヲ請フヘシ

(縣)乙第七十六号

十六年十二月三日

客年本縣乙第八十九号布達ニ據リ火葬場ヲ設置セントスルニ際シ若シ其町村内ニ適應ノ地ナキ時ハ隣町村ニ合併スヘシ此旨布達候事

(本)第三號

十八年一月八日

各警察署長

墓地及ヒ埋葬取締規則並ニ細則施行相成候處官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者及ヒ變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者ノ如キハ刑法ニ正條アルヲ以テ各本條ニ照シ處分スヘキモノニシテ本縣違警罪ノ刑ヲ適用スルノ限ニアラス其他右取締規則又ハ細則ニ違背シ處分スヘキモノハ都テ本縣違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘキ儀ト可心得此旨及訓示候也

追テ火葬場外ニ於テ火葬ヲ爲シタル者ノ如キハ刑法ニ正條ナクシテ取締規則ニ明文アルヲ以テ仍ホ本縣違警罪ノ刑ヲ適用スヘキモノトス

第七章 傳染病及檢疫

第一款 虎列刺病豫防心得

(縣)訓令乙第二十一號

二十一年六月廿二日

郡 役 所  
戶 長 役 場

虎列刺病豫防心得別冊ノ通相定ム

但從前ノ諸達並指令等ニシテ本文ニ抵觸スルモノハ渾テ廢止ス

虎列刺病ヲ撲滅スルニハ時機ヲ失セサルヲ必要トス先年來本縣下虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メクハ實況ニ於ケルモ其初發僅々二三ノ患者ニ過キタルノ際迅速ニ之ヲ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ良結果ヲ呈シ又未ダ該病發生ヲ見サル地方ニ在デハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レハ皆機會時期ヲ失ハサルコト由レ若シ其初發ニ於テ消毒豫防ヲ等閑ニスルトキハ毒焰熾盛ノ後ニ及テ假令非常ノ力ヲ盡スモ凶勢猛烈容易ニ之ヲ制スヘカラサルハ實験ニ徴シテ明カナリ故ニ虎列刺病未發ノ時ニ於テハ攝生清潔等ヲ力メ常ニ之カ豫防ヲ爲シ一朝該病發生スルヲ認メハ其未ク流傳セサルコト先ヲ急ニ主務委員ニ於テ撲滅ノ方法ヲ施行スルハ勿論一層攝生清潔ヲ謀リ苟モ該病誘發ノ虞アルモノヲ除却シ專ラ虎列刺病毒ノ侵襲ヲ防クコトヲ務ムヘシ

虎列刺病豫防心得

第二 豫防準備

第一條 郡長及戶長ハ各町村内ニ便宜組合ヲ編成シ清潔掃除及虎列刺病豫防消毒ノ實施

ニ付約束ヲ設ケ之ヲ履行セシムルヲ要ス

第二條 不潔ノ家屋ハ殊ニ内外ノ大掃除ヲ爲シ下ノ不潔物ヲ除去スヘシ其跡ニ乾キテ

ル土砂又ハ石灰等ヲ撒布スルヲ可トス但戸障子ヲ開キテ空氣ヲ流通セシメ衣服臥具等  
ハ日光ニ曝シ其垢ヲ洗滌シ且室内ヲ拭掃スルヲ要ス

第三條 炎熱ノ候ニ當テ下水溝渠等ノ泥芥ヲ日中ニ攪動スレバ惡臭ヲ發シテ空氣ヲ汚濁  
スルノ恐アルコトヨリ他ノ時候ニ於テ之ヲ浚除スルヲ可トス若シ炎熱ノ際浚除ヲ要スル  
トキハ必ス朝夕ニ於テスヘシ

第四條 用水ハ可成河水畦水溜水等ヲ用ヒス專ラ雨水ヲ攪用スルヲ要ス

第五條 虎列刺病發生ノ際廁間ノ糞便ハ可成稀硫酸ヲ加ヘテ之ヲ汲取リ無害ノ地ニ運搬  
シ糞池及其周邊ニハ稀硫酸ヲ注キ置キ爾後時々消毒藥ヲ撒布スルヲ要ス

第二 攝生法

第六條 虎列刺病ハ各人皆之ニ感スルノ素因アルコト似クモ雖トモ就中不攝生ノ人ニ  
感スル最多トス故ニ流行ノ際ハ殊ニ飲食ノ慎ミ其他不攝生ノ事ヲ戒ムルヲ以テ至要  
トス

第七條 飲料水ハ必ス無色無味無臭ノモノヲ撰ヒテ之ヲ用フヘシ若シ止ムヲ得ス其稍不  
良ノ疑アルモノヲ用フルトモバ之ヲ濾過スベシ然レドモ煮沸ノ後之ヲ用フルノ最良ナ  
ルニ如カオ蓋シ病毒ハ公微コシテ濾過方以テ盡ク之ヲ除ク去ルヘカラスト雖トモ之  
ヲ煮沸スルトモバ其毒ヲ全ク滅滅スルノ効アルモノトス

第八條 氷及冷水ハ縱令其質不良ナラサルモ之ヲ過度ニ飲用スルトキハ之ガ爲ニ下利ヲ  
發スルモノナリ故ニ流行ノ際ハ過量ノ飲用ヲ戒ムヘシ但不良ナリト認ムルモノハ決シ

テ之ヲ用フテカラス

第九條 酒ノ清淨ナルモノハ之ヲ適度ニ用フルハ害ナシト雖モ暴飲或ハ酸敗セルモノヲ  
用フルハ腸胃ヲ害シ或ハ下利ヲ發スルモノナレバ流行ノ際ハ必ス其品種ヲ擇ヒ務メテ  
飲量ヲ節減スルヲ良トス

第十條 食物ハ新鮮ノ肉類消化シ易キ蔬菜ヲ用ヒ平生ノ慣用ヲ改メサルヲ良トス但良好  
ノ食物ト雖トモ之ヲ過食スレバ又腸胃ヲ害シ此病ニ感シ易キガ故ニ流行ノ際ハ務テ適  
度ニ食シ不消化物不熟ノ菓實ヲ食フヘカラス

第十一條 雨濕或ハ夜氣ニ胃觸シ或ハ過度勞役等皆此病ニ感シ易キヲ以テ流行ノ際ニハ  
殊ニ之ヲ慎ムヘシ

第十二條 流行ノ際ニ當テハ感冒下利ヲ豫防センカ爲メ紋羽木綿等ニテ小腹ヲ巻キ務メ  
テ適度ノ温暖ニ其身ヲ保持スルヲ良トス

第十三條 流行ノ際能ク此攝生法ヲ守リ腸胃健全ナルトキハ些少ノ病毒ヲ受クルモ猶ホ  
其病害ヲ免ルコトアリトス看護人及ヒ汚穢物死體等ニ直接スルモノハ如キハ尤モ之  
ニ注意セサルヘカラス

第十四條 凡ソ豫防ハ平日攝生ノ謹嚴ナルヲ至要トス世間往々豫防藥ト稱スル方劑アリ  
ト雖モ多クハ無稽ノ考案ニ出テ之ヲ服用スルモ其効ナキモ多シトス

第三 遮斷法

第十五條 虎列刺病發生ノ初ニ於テハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルヲ要ス

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 市街村落ノ一部ニ於テ該患者陸續發生ノ漸次他ニ傳播スルノ恐アルコト方リ交通遮斷施行ヲ以テ病毒ノ蔓延ヲ防キ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ其旨速ニ伺出ツヘシ

第十六條 交通遮斷ヲ施行シタル場合ニ於テハ便宜繩張或ハ坪等ヲ設ケ嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ

第十七條 遮斷ヲ實施シタルトキハ郵便物日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ辨セシムヘシ

第十八條 遮斷部内ニ在ル者ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ衣類夜具ハ日光大氣ニ曝シ垢レタル衣類ハ屢洗濯セシムヘシ

第十九條 遮斷部内ノ家屋ハ戸障子ヲ開キテ室内常ニ日光大氣ヲ通セシムルヲ要ス

第二十條 遮斷部内ハ時々職員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシメ下利若シハ吐瀉ノ患者アリタルトキハ其吐瀉物汚染物ハ虎列刺患者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲シ殊ニ食物ニ注意セシムルヲ要ス

第二十一條 患者ノ吐瀉止ミ或ハ死亡シ或ハ之ヲ他ニ移シタル日ヨリ起算シ五日ヲ經過スルニ至ルニ至リテハ遮斷ヲ解除スヘシ

第四 消毒法

第二十二條 虎列刺患者ノ吐瀉物及汚染物ハ左ノ方法ニ基キ消毒法ヲ行フ

第一 患者ノ吐瀉物ニハ其四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ攪拌スヘシ又汚染物ニシテ消毒後使用スヘキモノニハ強石炭酸水ヲ注シヘシ其用量ハ物品ニ浸潤スルヲ度トス

第二 患者ノ通ヒタル便所ニハ糞便四分一ノ稀硫酸ヲ混シ攪拌シ糞便ハ汲取ラシメ燒却埋却ノ手續ヲ爲スヘシ但汲取ノ後糞池及其周邊ニハ尙充分ニ消毒藥ヲ灌クヘシ

第三 大糞池若クハ肥溜等多量ノ糞便ヲ貯フル場所ニ患者吐瀉シ若クハ吐瀉物ヲ投棄シタルトキハ凡其糞量四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ攪拌シ尙其内面及周圍ニ普ク稀硫酸ヲ撒注スヘシ

第四 該病家及邊傍ノ下水芥溜溝渠又ハ土間椽先キ等吐瀉物ヲ放下シ又ハ吐瀉シタルノ懸念アル場所ニハ稀硫酸格魯兒石灰水等ヲ灌注シテ攪拌シ若クハ撒布シ塵芥等ハ燒却スヘシ

第五 吐瀉物受器及運搬器ハ昇水水又ハ強石炭酸水等ヲ灌注シテ洗淨シ該運搬人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ強石炭酸水消毒ヲ行ヒ其手足ヲ弱石炭酸水ニテ拭淨シテ自己ノ衣類ト更ヘシムルヲ要ス

第六 吐瀉物汚染シタルモノニシテ燒却スヘキ物品大略左ノ如シ

一 患者ニ被覆シタル衣類臥具蚊帳蓋及其平臥シタル場所ノ處等吐瀉物ニ汚染シタルモノ

二 看病人及同室者ノ衣類等ニシテ吐瀉物ニ汚染シタルモノ  
右ノ物品ハ雖モ一時間以上煮沸シタルモノハ之ヲ使用スルモ妨ケナシ

第七 家屋ノ消毒手續左ノ如シ

一 患者ノ居室及其他消毒ニ必要ト認ムル室ハ之ヲ密閉シ疊テ上ケ亞硫酸蒸氣八疊  
黄三百目ノ割合ヲ以テ三ヶ所分チテ行ヒ若シ床及床下ニ吐瀉物滲漏シタル  
燃焼シ少クモ二時間チ放置スヘシ  
キハ昇永水又ハ格魯兒石灰水等ヲ充分ニ濯クヘシ但同室内ニアリタル疊其外諸  
物品器具ハ同時ニ該蒸氣ヲ以テ其消毒ヲ了スベシト雖モ鐵屬製器及時計類並色  
ノ變スヘキ物品器具ハ之ヲ取除キ強石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 蒸熱後室内ヲ掃除シ塵芥ハ皆焼却シ諸物品器具疊建具等ハ室外ニ出シテ日光大  
氣ニ曝シ而シテ弱石炭酸水ヲ以テ各所チ拭淨スルチ要ス以上丁リタルトキハ各  
室チ開放シ日光大氣ヲ通セシムヘシ

三 室内ノ構造裝飾等亞硫酸蒸氣ノ爲メ損傷チ來スヘキ虞アル場合ニ於テハ丁寧ニ  
強石炭酸水ヲ以テ拭淨シ且同室内ニコアリタル物品器具ハ強石炭酸水ヲ以テ消毒  
シ數日開放シテ日光大氣ヲ通シ家人ノ起居ヲナサシメルチ要ス

第八 病家ニ出張シタル主務吏員人夫等ノ足袋靴草履等ハ相當ノ消毒チ爲スニ怠ラサ  
ルチ要ス

第九 患者ト同家屋ニアリタル者ハ該患者ヲ避病院ニ隔離スルカ若クハ死亡シテ死体  
チ取片付ク若クハ全治シタルトキハ各自ノ衣類ニシテ消毒付着リ疑アルモノハ

之ヲ消毒シ入浴若クハ行水ヲ爲シテ身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第十 船舶ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉ヲ爲シタル場所ニ昇永水又ハ強石炭  
酸水ヲ注シテ充分消毒ヲ爲シタル上吐瀉物ニ汚染シタル物品ハ本條第六項ニ據  
リ所置シ船体ハ一般ニ水若クハ海水ヲ以テ丁寧ニ洗滌スヘシ

第十一 瀕死ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ニ強石炭酸水ヲ注シ灰砂ノ類チ其  
上ニ撒テ之ヲ器物ヨリ移取リ燒却シ其場所ニハ昇永水又ハ強石炭酸水ヲ注クヘシ

第十二 死者取扱ハ其死体ニ被ヒタル蒲團又ハ衣類ハ昇永水ヲ充分ニ撒キ次ニ其蒲團  
等チ除ク若衣ノ上ヨリ尙充分ニ昇永水ヲ撒キ之ヲ棺ニ入ルヘキハ燒却スヘキ衣  
履或ハ襪襪等ニ昇永水ヲ浸シタルモノチ死者ノ肛門部ニ敷クヘシ又棺ト死体ト  
ノ間隙アル所ニハ成ルヘク昇永水ヲ浸シタル襪襪等チ燒却スヘキ衣類等チ以テ  
詰メ物ト爲スヘシ

第二十三條 消毒藥ハ病毒チ消滅スルニ緊要ノモノナレハ流行時ニ方リ該患者ナキ家ニ  
徒ラニ石炭酸水チ撒布シ又ハ亞硫酸蒸氣ヲ爲シ又ハ通行人ニ石炭酸水チ撒注スルガ如  
キハ空ク消毒藥チ徒費スルノミニテ更ニ其効ナキモノナリ寧ロ其消毒藥チ備ヘ置キ下  
利若クハ吐瀉スル者アル場合ニ於テ直ニ便所ニ注キテ消毒スルコト極メテ必要ナリト  
ス

第二十四條 消毒藥ノ種類左ノ如シ

- 一 強石炭酸水
- 石炭酸五分
- 水百分
- 消毒後使用スル衣類器具等ニシテ變色毀損ヲ忌モン、消毒

一 用ヒ又稀硫酸缺乏シタル場合ニ於テハ吐瀉物糞池及其周邊ノ消毒ニ用フ  
 石灰酸ヲ溶解スルニハ先石灰酸十分ニ蒸溜水一分或ハアルコヲ加ヘ振盪シテ澄  
 明ノ液ト爲シ徐々ニ水ヲ注キツ、攪拌スレハ一時潤濁ヲ生シ遂ニ其水量二百分  
 達スルニ至リ全ク溶解シテ澄明ノ液トナル是レ即チ強石灰酸水ナリ但温湯ヲ用フ  
 レハ其溶解殊ニ速カナリ  
 一 弱石灰酸水石灰酸二分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス  
 分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス  
 一 稀硫酸硫酸二十分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス  
 稀硫酸硫酸二十分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス  
 一 吐瀉物糞池及其周邊下水其他總テ變色毀損ノ憂ナキモノ、消毒  
 ニ用フ其價廉ニシテ消毒ノ効較著ナルモノトス稀硫酸ヲ製スルニハ百分ノ水ヲ取  
 リ絶ヘス此水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸二十分ヲ注加シ製スハ決シテ硫  
 酸中ニ水ヲ注加スヘカラス  
 一 稀硫酸ヲ糞池ニ入レハ沸騰ヲ起シ糞便流溢スルノ恐アリ依テ糞便多量ナルトキ  
 ハ其半量ヲ他ノ器ニ移シ各別ニ消毒スヘシ  
 一 格魯兒石灰水即チ鹽化石灰水四分水百分格魯兒石灰ヲ芥溜下水床下土間ノ消毒ニ用フ本品  
 ハ使用スルニ臨テ製スルヲ可トス  
 一 昇永水昇永一分乃至二分ハ吐瀉物ニ汚染シタルモノニシテ燒却スヘキモノ床下及  
 屍体ニ係ル消毒ニ用フ但糞池及吐瀉物ニ用フヘカラス  
 一 本品ハ猛毒ニシテ且無色無臭ナリテ以テ使用者ノ不注意ニ由リテハ大害ヲ醸スニ  
 トアリ故ニ使用ノ際殊ニ注意スヘシ且飲料水ニ滲透スヘキ場所ニ決シテ撒注スヘ  
 カラス

本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加フレハ藍色ノ水ト爲リ一見シテ昇永水ナルヲ知ルヲ得  
 タ安全ナルヘシ尙此他昇永水ノ効力ヲ失ハサル色素ヲ用ヒ着色スルモ妨ケナシ  
 本品ハ磁器又ハ桶ニ貯フヘシ金屬ノ器ニ貯フヘカラス  
 以上ノ各消毒藥ニハ劇レキ藥ナリ飲ムヘカラスト要記スヘシ  
 一 亞硫酸亞蒸ハ室内ノ消毒及色ノ變セサル衣類器具等ノ消毒ニ用フ  
 ○並列刺患者發生シテ地方ニシテ檢疫法施行ノ前後管掌事務

第一 管掌區分

警察官部吏協同管掌

- 一 虎列刺患者發生シタル時其消毒及撲滅法實施法監督ノ事
  - 一 治療及看護方監督ノ事
- 警察官部吏協同管掌
- 一 死屍埋火葬及汚穢物品燒棄又ハ埋沒場取設ノ事
- 郡吏主管
- 一 埋火葬場及汚穢物品燒棄場又ハ埋沒場取設ノ事
  - 一 貧窮者汚穢物品買上ノ事
  - 一 同消毒藥豫防藥治療藥施與ノ事

第二 事務取扱心得

第一 虎列刺患者發生シタルトキハ虎列刺流行地方實地旅行事務第一條第二條ノ手續ヲ行フト同時ニ電信ヲ以テ縣廳ヘ申報シ置キ更ニ詳細具申スヘシ  
但電信ヲ以テ申報シ能ハサル地方ニシテ態夫ヲ以テスルトキハ其申報上封ニ至急ノ文字ヲ朱書シ差出スヘシ

第二 豫防消毒藥及器械ハ左ノ割合ヲ以テ常ニ下渡シ置クヘシ  
但時宜ニ依リ箇數ヲ増減スルコトアルヘシ

警察署	分署
石炭酸	五 罇
アルコール	二 罇
硫酸	二 罇
噴射器	五 個
硫黃	一 貫目
石炭酸	二十五 罇
アルコール	五 罇
硫酸	十 罇
噴射器	十 個
硫黃	三 貫目

第三 警察署及分署ノ豫防消毒藥ハ派出警察官ノ豫防ニ用フルモノトス、

第四 郡役所ノ豫防消毒藥ハ病家ノ消毒及派出郡吏戸長醫師等ノ豫防ニ用フルモノトス、

但病家ノ消毒ニ用フルハ病家ニ該藥ノ豫備ナキ時又ハ病勢猛烈須臾モ聞クヘカラサル場合ノ外用フヘカラス、

第五 豫防消毒治療ニ關スル物品ハ病家ニ於テ自辨セシムヘシト雖モ極貧ニシテ藥物等自辨スル能ハズル者ヘハ左ノ科目中適宜見計郡役所ヨリ一時下渡置事由テ具シ費用ヲ請求スヘシ

治療藥價

消毒藥

病毒ニ觸レタル衣服臥具其他ノ燒却料

但重大ノ物品ハ一時消毒ニ置經伺ノ上處分スヘシ

棺桶並棒

火葬費

人足賃

第六 極貧ノ者ヘ豫防消毒藥ヲ施與スル場合ニ於テハ大凡患者一名ニ付左ノ割合ヲ以テ郡役所ノ豫備藥ヨリ支出シ追テ縣廳ヘ請求シ其缺ヲ補ヒ置クヘシ

石炭酸水	一 罇
硫黃	二百目



第七 醫師ヲ雇入レ檢疫セシメントスルトキハ經伺ノ上雇入ルヘシ其旅費ハ十九年閣令

第十四號内國旅費規則六等額ヲ以テ支給スヘシ

但急施ヲ要スル場合ハ速ニ雇入ノ上詳細具狀スヘシ

○虎列刺流行地方實地施行事務

第一 撲滅法

- 第一條 虎列刺患者發生毎ニ郡町村吏ノ内一名警部巡查ノ内一名郡醫町村醫ノ内一名郡町村醫不在ノ速ニ其家ニ立會其患者ハ傳染シタルモノナルヤ特發ナルヤヲ探知スル爲メ重モ左ノ事項ヲ質問スルヲ要ス
  - 一 發生ノ時日
  - 二 發病前不良ノモノヲ飲食セシコトナキヤ
  - 三 飲料水ハ井水ナルヤ將テ河水ナルヤ
  - 四 發病以來吐瀉ノ度數ハ幾回ナルヤ
  - 五 患者ノ吐瀉物ヲ何ノ所ニ棄タルヤ
  - 六 發病前當人及家内ノモノ他ノ該病アル地へ行キシコトナキヤ
  - 七 該病アル地ヨリ來タリト物品ナキヤ
  - 八 該病アル地ヨリ客來若シハ職人婢僕ノ傭入ヲ爲セシコトナキヤ
  - 九 會テ其家若クハ近隣ニ該病アリシコトナキヤ又近頃下痢ヲ患ヒシモノナキヤ
- 第二條 傳染ナルト特發ナルトニ拘ラズ其最初ニ在テハ速ニ嚴重ノ手段ヲ施シ患者ハ第

十四條ヨリ第二十三條マテニ依リ取扱ヒ充分ニ消毒法ヲ行ヒ一家限りニテ撲滅スルヲ力ムヘシ此場合ニ於テハ醫員ヲシテ該家及近隣ヲ巡診セシメ攝生法ヲ諭示シ殊ニ飲食ヲ戒慎セシムル等諸般ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ他ト交通ヲ絶テ隔離遮斷法ヲ行フヘシ

但市街町村ノ一部落ヲ遮斷スル場合ハ虎列刺病豫防準備第二十二條第二項ノ手續ヲ經ヘシ

第四條 患者ノ吐瀉物ヲ河中ニ投棄シタルコト判明セシトキハ直ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 下流ノ町村ニ告示シ其當日ヨリ五日以上飲料ハ勿論諸物品洗滌ノ用ニ供スルヲ禁シ且ツ同時ニ其下流ノ郡役所ノ戸長役場接近セシトキハ該役場
- ニ 該流水ノ道路ニ沿ヒ行人ノ飲用ニ供スルノ恐レアル場所ニハ禁示ノ標札ヲ建テ行人ニ表示スヘシ

第五條 郡役所ニ於テ吐瀉物投棄ノ急報ヲ得タルトキハ直チニ前條ニ準ジテ處置スヘシ

但戸長役場ニ於テ急報ヲ得タルトキハ直チニ前條ニ準ジテ處置スルト同時ニ隣接戸

長役場ニ急報シ且本郡長ニ具狀スヘシ

第六條 患者ノ吐瀉物ヲ芥油ニ投棄シタルコト判明セシトキハ其塵芥ヲ燒棄シ若クハ消

毒ノ上一定ノ場所ニ深ク埋却スヘシ

但下水又ハ溝渠等ニ投棄シタルトキハ虎列刺病豫防準備第二十九條第四項ニ依リ消

毒ヲ行フヘシ

第七條 一家限隔離法ヲ行フヘキ場合ニ於テハ其室内ノ廣狹空氣ノ流通家ノ多寡及ヒ  
家屋内外ノ清潔ナルヤ否ヤヲ監査ノ上虎列刺病豫防準備第二十二條第一項ニ依リ處置  
スヘシ

第八條 前條患者ノ家屋狹隘ナラザルモ家人他數ニシテ不潔且空氣ノ流通宜シカラス又  
ハ其家狹隘ナルカ若クハ近隣貧民多ク傳染ノ媒介ヲナスノ虞アリテ一家限隔離法ヲ行  
フハ危險ナリト認ムルトキハ避病院ニ送ルヘシ

第九條 虎列刺患者ニ自宅療養ヲサシムルトキハ家族ノ内看護人ヲ定メ老幼ハ可成他  
家ニ退退セシムヘシ  
但看護人ハ可成交換セシメサルヲ要ス

第十條 學校病院劇場寄席旅人宿下宿屋等ノ如キ多人數群居スル家ニ於テ發病者アルト  
キハ先ツ患者ヲ隔離シ同室者ノ外出ヲ禁シ其家並同室者ノ衣類便具等ノ汚染シタレモ  
ノコハ充分消毒法ヲ施行シ患者ヲ隔離シクル日ヨリ五日間他ト交通ヲ絶ツコトヲ得

第十一條 諸船泊及漁舟中ニ發病者アルトキハ第一條ニ準シテ要領ヲ質問シ若シ吐瀉物  
ヲ河中ニ投棄シタルトキハ第四條ニ據リ其處置ヲナシ患者ハ陸ニ於テ避病ニ適應ノ場  
所ニ送り死者ハ消毒ノ上火葬ノ手續ヲ爲シ其船舶ハ水若クハ海水ヲ以テ洗滌シ且旗号  
ヲ立テ人家及他ノ船舶ニ遠リタル所ニ碇泊セシメ又飲食起臥ヲ共ニシテ同船者ハ消  
毒ノ上其船中又ハ隔離所ニ五日間滞留セシメ同症ニ罹ルモノナキヤ否ヤニ注意スヘシ

第十二條 學校病院劇場寄席旅人宿下宿屋等發便ノ量多キ所ニ患者ノ入りタルトキハ粗  
製硫酸ヲ注キテ攪拌シ之ヲ汲取り尙其跡及近傍ニハ強石炭酸水ヲ注キ之ヲ洗ヒ其洗水  
及糞便ハ一定ノ場所ニ深ク埋却スヘシ但海邊ナレハ退潮時ニ臨ミ陸地ヲ離ル一里餘ノ  
沖合ニ投棄スルモ妨ケナシ

第二 患者取扱

第十三條 虎列刺患者ハ勿論該病流行時ニ當リテハ吐瀉若クハ下利アル患者ノ吐瀉物汚  
染物等ハ消毒藥ヲ注キ之ヲ一所ニ集メ置キ散乱セシメス且醫師若クハ掛官ノ出張スル  
迄該患者ヲ他ニ移シシメ又家族親族ヲ引リモ看病者ノ外安リコ室内ニ立入ラシメザ  
ルヲ要ス

第十四條 虎列刺患者アルトキ左ノ各項ニ該當セザル者ハ患者ヲシテ避病院ニ移シ治療  
ヲ受ケシムルヲ要ス但該當スル者モ掛官ニ於テ特ニ病毒傳播ノ虞アリト認ムル場合  
ニ於テハ避病院ニ入ラシムルヲ可トス

- 一 家族ノ房間及發所ヲ通行セシメテ至リ得ヘキ病室ヲ有スル者
- 二 特別ノ看病人アル者
- 三 特別ノ家具汗器ヲ有スル者
- 四 充分ノ消毒法ヲ實施シ得ル者
- 五 主治醫アル者

第十五條 避病院ニ送ルヘキ患者ハ釣臺又ハ戸板等ニ布圍ヲ敷キ風通シ善キ日除ヲ備ヘ  
テ之ヲ載セ且吐瀉物ヲ受クルモノヲ備フヘシ此際付添看病ヲナントスルモノアラハ

之ヲ許スモ妨ナレ

第十六條 第十四條ニ依リ自宅治療セシムルトキハ豫防消毒ヲ一層周密ニシ衛生官吏警  
察官又ハ檢疫委員ノ設ケアルトキハ該委員時々之ヲ見廻ルヲ要ス

第十七條 患者アリシ家ノ家族及看病人等ノ如キ患者同居ノ者若クハ該家ニ交通シタル  
モノコシテ下利若クハ吐瀉シタルトキハ其吐瀉物及汚染物ニハ虎列刺患者ノモノト同  
様ノ消毒ヲ爲スヲ要ス

第十八條 吐瀉物及汚染物ヲ取扱ヒ若クハ患者ニ觸レタルモノハ直ニ他ノ物品ニ觸ルヘ  
カラス像メ鉢又ハ桶ノ類ニ弱石炭酸水ヲ入レ置キ之ニテ手ヲ洗フヘシ又患者ヲ取扱フ  
際自己ノ衣服ヲ患者ノ吐瀉物等ニ觸レタル様注意スルヲ要ス

第十九條 吐瀉物等ヲ拭フニハ燒藥ヲテ妨ナキモノヲ用フヘシ而シテ其使用シタルモノ  
ハ消毒物受器ニ入レ稀硫酸ヲ注クヘシ

第二十條 該患者必要ノ物品等ハ其室内ニ於テ使用シ他ニ出サシメサルヲ要ス  
第二十一條 患者ノ室内ニアリクハ飲食物ニシテ吐瀉物ニ汚染セシモノハ勿論其汚染ヲ  
疑アルモノモ吐瀉物同様ニ處置シ且患者ノ食膳ニ上リタル殘餘食物モ亦同様處置スル  
ヲ要ス

第二十二條 吐瀉物受器ハ二通り備ヘ置豫メ稀硫酸ヲ容レ甲器ノ吐瀉物滿ツルニ先ナ乙  
器ト交換シ室内ニ置クヘシ但此受器ハ金屬製ヲ用ユヘカラス其吐瀉物ハ別ニ室外ニ備  
ヘアル吐瀉物受器ニ移シ尙稀硫酸ヲ注キテ燒却ノ手續ヲ爲スヘシ但吐

瀉物留コハ必ス蓋ヲナシ置蚊蠅ヲ防クヘシ且下水井戸ノ近傍ニ置クヘカラス

第三 檢疫委員

第二十三條 檢疫委員ヲシテ取扱ハシムヘキ重ナル事項左ノ如シ

- 一 該病ノ傳染ナルヤ否ヲ探知スル事
  - 一 傳染ト特發トヲ問ハズ第二條ニ依リ速ニ充分ノ處置ヲナス事
  - 一 消毒藥及其要具ヲ準備スル事
  - 一 消毒藥ノ種類配合用量ニ注意スル事
  - 一 消毒法ヲ實地ニ就キ注意スル事
  - 一 必要ノ場合ニ於テ毎病家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキ  
ヤ否ヤノ鑑別及其實施ヲ監督スル事
  - 一 遮斷地内救助ニ注意スル事
  - 一 遮斷地内清潔ニテ監督スル事
  - 一 避病院ヲ巡視スル事
  - 一 醫員巡診法ヲ計畫スル事
  - 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スル事
  - 一 攝生法飲料水飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スル事
  - 一 學校病院劇場寄席旅人宿下宿屋等ハ特ニ注意スル事
- 第二十四條 檢疫委員及其他豫防ニ從事スル者ハ成ルヘク特別ノ消毒衣ヲ着用シ病毒汚

染ノ虞アル毎ニ之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第四 避病院

第二十五條 人家稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ成ルヘク市外ニ準備シ置クヲ要ス且村落ニ於テモ第二條第三條ノ場合ニハ相當ノ家屋寺院等ヲ避病院トスヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ僻遠ニ過キサルヲ可トス又偏僻ノ村落ニ在テ一家ニ數名ノ患者ヲ發シ又ハ連綿ニ患者發生シタルトキハ土地家屋ノ狀況ニ依リ健康者ヲ他ニ隔離スル等便宜ノ取計ヲナスヘシ

第二十六條 入院患者ノ家族等コレヲ直接談話ヲ要スル事アリ面會ヲ申出テ若クハ付添看護ヲ乞フ者アルトキハ醫員其他コレヲ其心得方ヲ諭示シ之ヲ許スヘシ

第二十七條 避病院掛員ハ當直醫世話掛各一員以上ヲ置キ且看護室小使排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄入ハ一切病室ニ立入ラシムヘカラス村落ニ於テハ之レニ準シ簡易ニスルモ妨ケナシ但掛員看護者等ノ身体疲勞シタル者ハ休息セシムルヲ要ス

第二十八條 避病院ノ構造方概テ左ノ如シ

- 一 柱及棟梁桁等ハ丸太細木ノ類ヲ以テ建築シ繩ヲ以テ網纏シ屋根ハ板葺又ハ藁葺ニスヘシ四圍ハ板ヲ編付ケ障扉トナスヘシ
- 二 床ハ成ルヘク之高クシ板ヲ敷並フヘシ窓戸ハ濶大ニスルヲ要ス
- 三 居室ノ種別左ノ如シ

病室ノ部

輕症室 六坪乃至八坪 一棟

重症室 全 全

恢復室 全 全

但患者一名ニ付大約一坪五合ヲ要ス故ニ一棟大約四五名ヲ容ルヘシ實際ノ狀況ニ依リ室内ノ廣狹必シモ三室一棟ヲ要セス

附屬室ノ部

屍室 三坪 一棟

但成ルヘク病室ニ隔離シテ之ヲ設クヘシ構造方ハ病室ニ同シ

蒸氣室 一坪 一棟

但板圍ヲ以テ蒸氣氣ノ漏散セサル様密閉シ得ヘカラシメ其内ニ竿ヲ架シ或ハ繩ヲ張リ衣服等ヲ掛ルニ便コス其小ナルモノハ尋常ノ戸棚長持等ヲ以テ之ニ充ツヘシ醫師世話掛及看護人小使等詰所 八坪以内 壹棟

但構造方病室ニ同シ

風呂場 二ヶ所

但一ヶ所ハ醫師世話掛看護人用一ヶ所ハ恢復病者用

但一ヶ所ハ恢復患者用一ヶ所ハ尋常用

(縣)官房第五十二号

二十一年七月二日

警察本部

四五六

客月二十二日訓令乙第二十一号ヲ以テ虎列刺病豫防心得各郡役所戸長役場へ相達候條該病豫防ノ儀ハ右ニ準據取計フヘシ

○第二款 傳染病患者届規則

(縣)達乙第六号

十六年一月十九日

傳染病患者届規則左ノ通相定候條此旨布達候事

傳染病患者届規則

第一章

醫師ノ務

第一條 醫師傳染病ヲ診斷セタルキハ傳染病豫防規則第二條所定ノ時間内ニ第一号書式ニ據リ診斷書ヲ製シ其町村戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ

但土地ノ便宜ニ據リ醫師ヨリ直ニ届出ルハ傳染病豫防規則第二條但書ニ準據スヘシ

第二條 施治ノ患者全治或ハ死亡セタルキハ第二号及第三号書式ニ據リ報告書ヲ製シ全治者ハ三日間内死亡者ハ廿四時間内ニ其町村戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ

第二章

戸長衛生委員ノ務

第四條 戸長若クハ衛生委員ニ於テ第二條第二條ノ通知ヲ得タルトキハ速ニ第四號書式ニ據リ届書ヲ製シ郡役所及所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

明治十八年乙第五十一號ヲ以テ追加

第五條 管理外ノ者其町村ニ在テ傳染病ニ罹リタルトキハ其町村戸長若クハ衛生委員ヨリ第四號ノ手續ヲナシ而シテ本籍戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ本籍戸長及衛生委員ニ在テハ別ニ届出ニ及ハス

何病患者診斷書

第六條 未治ノ患者ニシテ他ヘ移轉スルトキハ其旨移轉地ノ戸長若クハ衛生委員ニ通知シ且郡役所ヘ届出ヘシ

第七條 前條ノ通知ヲ得タル戸長若クハ衛生委員ニ於テ其旨郡役所ニ届出ヘシ

明治十六年乙第六十號式達

山形縣何郡何町番地族籍(他管下ノモノハ當時山形縣何郡何町村何誰方ニ寄留ト記載スヘシ) 戸主或ハ父母兄弟妻子

職業(右本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農業ニシテ自ラ勞働セサル者)ト自ラ耕作スル者トヲ區別シ又婦女老幼等ノ職業ヲキキ者ハ戸主何職業ト記スヘシ) 氏名

年齢(幾年幾月ト記スヘシ)

病名(年月日時發病) 痘疹患者ハ未種痘初種痘或ハ再三(年月日時診斷) 種等ノ別ヲ本項ノ下ニ記ス可シ

四五七

再三感(有)

發病前病患(無)

徵候ノ要旨

右 診斷 候也

年月日

第貳号書式

何病患者全治報告

病名 年月日時發病 年月日時全治

山形縣何郡何町番地族籍。全上

戶主或ハ父母兄弟妻子

職業 全上

氏名

年齡 全上

山形縣何郡何町番地

施治 醫

氏名 印

醫生館醫ナラハ其旨記載スヘシ

病勢(劇)

續發症(無)

右 報告 候也

年月日

第三号書式

何病患者死亡報告

病名 年月日時發病 年月日時死亡

病勢(劇)

山形縣何郡何町番地

施治 醫

氏名 印

全上

山形縣何郡何町番地族籍。全上

戶主或ハ父母兄弟妻子

職業 全上

氏名

年齡 全上

續發症(無)

死亡ノ因由

右報告候也

山形縣何郡何町番地

施治醫

氏名

印

全上

年月日

第四號書式

何病患者(全治)御届

山形縣何郡何町番地族籍。全上

戸主或ハ父母兄弟妻子

職業 全上

氏名

年齢 全上

右ハ施治醫何某ヨリ別紙診斷書(或ハ全治)ノ通々知相成候。付此段及御届候也

山形縣何郡何町

第三號 虎列刺

虎列刺患者届方ハ別紙(或ハ全治)ノ通々知相成候。付此段及御届候也

警察本署

右相達ス

丙第拾六号

役所

戸長 役場

醫師ノ虎列刺症患者ヲ診斷シテ... 照準診斷書ヲ製シ成規ニ據リ... 延ハ愛モ有之... 診斷書ヲ製シ届出不苦候條此旨相心得醫業組合幹事ハ相達ス

○第二款

罹病者報告

(本)乙第百二十二号

廿一年三月十五日

各警察署

分署

明治十八年八月裁定ノ警察處務順序中第百三十條傳染病又ハ獸疫等ノ報告表ヲ自今廢止  
シ警察日報流行病ノ欄内ニ病名初期發地原因經過全治死亡族籍氏名年齡等詳記報告スヘ  
シ

○第四款

種痘取締細則及施行順序

(縣)乙第百三十六号

十八年十二月二十六日

種痘取締細則左ノ通相定メ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治十七年七月乙第百六十八号布達ニ施行當日ヨリ廢止ス

種痘取締細則

第一條 種痘ノ季節 毎年兩期 四月ヨリ六月ヲト定ム其場所及期日ハ戶長役場ヨリ告  
示スヘシ

第二條 小兒出生后七十日ヲ經過ス滿一年以内ノ小兒ノ及再三種ヲ要スルモノハ戶長役場  
ヨリ告示スル期日ニ必ズ種痘ヲ爲スヘシ

第三條 種痘濟ノモノ又ハ天然痘ニ罹リタルモノ醫師ヨリ其證書ヲ受領シタルトキハ第  
一号書式ニ據リ戶長役場ヘ届出ツヘシ

第四條 種痘ヲ受ケルモノハ第一條ノ期日ニ於テ種痘スル能ハサルトキ病氣ハ第二書式  
事故ハ第三書式ニ據リ戶長役場ヘ届出ツヘシ

(第一第二第三書式略之)

(縣)丙第八号

十九年一月十一日

明治十八年十二月乙第百三十六号ヲ以テ種痘取締細則布達候コ付テ種痘施行順序左之通  
相定候條此旨相心得開業醫ヘモ無漏差示スヘシ

種痘施行順序

第一條 郡長ハ一戶長役場區域内ニ便宜種痘所ヲ設置スヘシ

第二條 郡長ハ種痘所ノ數ハ應ニ適宜撥當醫ヲ命スヘシ

第三條 郡長ハ第一條第二條ノ手續ヲ了リタル後第一號書式ニ據リ種痘所表ヲ製シ縣廳  
ヘ届出ツヘシ

但本文届出ノ後變更ヲ生シタルトキハ其都度届出ツヘシ

第四條 郡長ハ第二號書式ニ據リ種痘明細表ヲ製シ毎年二期 春期分ハ七月十五日限リ秋  
期分ハ翌年一月十五日限リ

縣廳ヘ差出スヘシ

第五條 郡長ハ種痘日割ヲ定メ戶長ヲシテ其所轄町村コ告知セシムヘシ

第六條 戶長ハ種痘所ハ關スル一切ノ庶務ヲ調理スヘシ

第七條 戶長ハ第三號書式ニ據リ臺帳ヲ製シ置キ當期接種ノ成否ヲ記載捺印スルノ用ニ  
供ス



第八條 戶長ハ當日種痘所ニ出席シ出席種痘人ヲ臺帳ニ照合シ其當日一時ノ病氣事故等  
 病氣又ハ事故故無キ種痘日限内ニ於テ接種不能ナルモノアルトキハ次ノ種痘期ニ  
 於テ必ず接種せしめざる可キ事ヲ注意シ其理由ハ書面ニ記載スルベシ  
 第九條 戶長ハ接種簿ノモノヨリ差出シタル證書ヲ領收シ臺帳ニ割印ノ後第四號書式  
 據リ種痘明細表ヲ製シ毎年三期限分ハ七月七日限リ秋那從所ニ差出スルベシ  
 第十條 種痘證書當該日受持種痘所ニ就テ接種術ヲ受ケルベシ  
 第十一條 擔當醫ハ接種簿ノ後第六七日ニ於テ必ず点檢法ヲ行ヒ第五號書式ニ據リ種痘  
 證書與之同ニ第一號第二號ノ手帳ヲ下リテ之ニ捺印シ之ヲ種痘所ニ提出スルベシ  
 但点檢上不善感ノモノハ三日以内ニ戶長役場ニ通報スルベシ  
 第十二條 擔當醫非キル醫師ニ於テ種痘ニ施スル時總務課長ノ准據スルベシ  
 第十三條 擔當醫非キル醫師ニ於テ種痘ニ施スル時別ニ帳簿ヲ製シ種痘証ニ割印スルベシ  
 第十四條 種痘術方法ハ總務課長明治十八年四月丙寅九十九號達種痘術心得書ニ據リ  
 之ニ依リ行ハスルベシ  
 (第一號ヨリ第五號ノ書式略之)

第八章 醫業及責業  
 第一條 醫師犯則顛未報告  
 第二條 醫師犯則顛未報告  
 第三條 醫師犯則顛未報告

(本)乙第百七十五号 明治二十一年七月十七日

警察署

自今醫師ニシテ該業ニ關シ規則ニ背キ處分ヲ受ケタルハ醫師免許規則ニ據リ其筋ニ  
 申入都合モ有之候付告發書及裁判宣告書ヲ添ヘ仍ホ詳細其事情ヲ具シ至急當部ニ報  
 告スルベシ  
 追テ處分ヲ受ケタルハ其所爲不正ナリト認ムルハ本文全權報告スルベシ

(本)乙第百五十七号 廿一年四月十三日

警察署

獸醫ニシテ假免狀有スル者ハ一定ノ營業區域アリテ之ヲ侵ス者ハ獸醫免許規則ニ據リ  
 相當ノ處分相成ヘキ筈ニ處近來往々其區域ヲ侵シ營業スル者有之候ニ相聞果シテ右等ノ  
 者有之候ハ相當ノ手續利爲シ一面ハ詳細具狀スルベシ

但假免狀獸醫ノ營業區域及本免狀有スル獸醫ノ住所氏名別紙甲乙號之通ニ有之右ハ  
 警察上參照ニ必要ナルモノ付各其所轄ニ屬スル獸醫ノ名簿ヲ調製シ置クヘシ仍ホ增  
 減變更スル毎ニ保安課ニ通知スルベシ

別紙甲乙号ノ略ス  
 第三款 鍼灸術營業取締規則及入齒々抜口中療治接

骨業取締規則

十八年八月十四日

四六六

(縣)乙第八十九号

鍼灸術營業取締規則左ノ通相定來ル九月十日ヨリ施行ス

但從來營業ノ者ハ本月三十日限リ願出ツヘシ  
右布達候事

鍼灸術營業取締規則

第一條 鍼灸術ハ免許鑑札ヲ所持スル者ニテシテハ營業スルヲ許サス

第二條 新タニ開業セントスルモノハ修業履歷書及ヒ其師ノ證明書相添ヘ願出ツヘシ  
但師死亡等ニ係ルハ師醫ノ證明書ヲ添フヘシ

第三條 從來營業者コレヲ猶其業ヲ營マントスルモノハ履歷書ヲ添ヘ鑑札下付テ願出ヘシ

第四條 鍼灸術營業者ハ左ニ掲クル所業ヲ爲スヲ禁ス  
一 猥ニ藥劑及處方ヲ與ヘ若クハ施術ヲ勸ムルヲ

一 妊婦若クハ病者ニ對シテ施治醫ノ承諾ヲ經ズニテ施術スルヲ

第五條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ氏名族籍ヲ變換セントキハ其事由ヲ具シ鑑札再渡  
又ハ書換テ願出ツヘシ

第六條 廢業死亡又ハ他管ニ於テ營業セントスルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ  
但管内轉居ノ節ハ速ニ届出ヘシ

第八條 此規則第九條第四條ニ違背シタルモノハ違背罪ヲ以テ處分セラルヘシ

第九條 此規則ヲ違背シテ重罪ヲ犯スルハ營業ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

(縣)乙第八十八号

十八年八月十四日

入齒々抜口中療治療骨營業取締規則左ノ通相定來ル九月十日ヨリ施行ス

但從來營業ノ者ハ本月三十日限リ願出ツヘシ  
右布達候事

入齒々抜口中療治療骨營業取締規則

第一條 入齒々抜口中療治療骨ノ業ハ免許鑑札ヲ所持スルモノニテハ營業スルヲ許サス

第二條 從來營業者コレヲ猶其業ヲ營マントスルモノハ履歷書相添ヘ鑑札下付テ願出ツヘシ

第三條 醫師治療中ノ患者ハ其醫ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ施術スヘカラス

第四條 入齒々抜口中療治療骨營業者ハ左ニ掲クル所業ヲ爲スヲ禁ス

一 毒藥劇藥ヲ配伍セシメ藥劑ヲ用ユルコト

一 切除及切断術ヲ施スコト

一 猥ニ藥劑及處方ヲ與ヘ若クハ施術ヲ勸ムルコト

一 路頭ニ於テ施術スルコト

第五條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ氏名族籍ヲ變換セントキハ其事由ヲ具シ鑑札再渡

四六七

明治廿三年三月  
第十號  
第七十號  
第七十號  
第七十號  
第七十號  
第七十號

第六條 廢業死亡或因他管下ニ於テ營業セントスルキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ  
但管内轉居ノ節ハ速ニ届出ヘシ  
第七條 此規則第一條第三條第四條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ処分セラレヘシ  
第八條 此規則ニ違背シテ情狀重キモノハ營業ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ  
○第三款 阿片元受及賣捌手續  
(縣)丙第百號  
十二年四月三十日

郡 役 所

阿片元受及賣捌手續之儀册之通ハ相設ク候條藥舖並醫員ハ無漏可告示此旨相違候事  
阿片元受並賣捌手續  
各可藥場主阿片ヲ拂下シテ册治十二年八月廿九號官第二十二號布告ヲ遵守シテ  
願出シ藥舖ハ限付テ册治十二年四月十五日ヨリ施行ス  
一 阿片ハ粉末一匁ヲ一器トシ每器ニ司藥場檢査印紙及番號「モルヒネ」ノ含量等ヲ明  
記セシ藥名箋ハ限付テ册治十二年四月十五日ヨリ施行ス  
一 郡役所ニ於テハ特許藥舖等毎半年分拂下シ申請書ヲ取調願書ト共ニ一月十五日  
ヨリ七月十五日南度縣廳ニ開申スルハ限付テ册治十二年四月十五日ヨリ施行ス  
一 特許藥舖主ハ特許藥舖ニ阿片ヲ拂下シタル毎半年分拂下シ申請書ヲ取調願書ト共ニ一月十五日ヨリ七月十五日南度縣廳ニ開申スルハ限付テ册治十二年四月十五日ヨリ施行ス

但缺乏ノ節臨時拂下シタル規則第七條ノ通りダトヘク且拂下ノ定期ハ毎年三月  
ヨリ四月九月ヨリ十月ト豫定スレトモ本年ハ五月ヨリ七八月ニ至ルチ一期トス  
一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ賣捌フトキハ其都度一檢藥舖醫師及平人ハ處 住所姓名ナレハ  
其國名ヲモ 瓶數番號代價月日ヲ詳細記載シ置キ 每半年 一月ヨリ六月 分攤形ノ表二  
記スヲ要ス 通テ製シ買受人ヨリ差出シタル證書ト共ニ 二月十日ヨリ運カラサル候郡役所子經由  
シ縣廳ニ差出スヘシ  
但一瓶ヲ再三度ニ賣捌クトキハ證書ヲ不要ト雖トモ本文ノ通必ス帳簿ハ明記シ置  
クヘシ  
一 縣廳ニ於テ特許藥舖ニ阿片ヲ拂下クルトキハ都テ現金ヲ以テ收納スヘシ  
一 阿片買上拂下ノ價格ハ毎半年或ハ一年ヲ通シテ之レヲ定メ内務省衛生局ヨリ報告ア  
ルヘシ  
一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ衛生局ヨリ報告ノ原價ニ相當ノ手数料ヲ加フヘシ  
ト雖トモ三割ヨリ超過販賣スヘカラス  
一 内務省ヨリ拂下シタル所ノ阿片其價格ニ每期多少ノ差異ナキヲ得サルニヨリ縣廳ニ於  
テハ其高低ニ不拘番號ノ項ヲ逐ヒ其定價ニ從ヒ拂下クヘシ

明細表雜形

明治何年上  
下半年阿片受拂細表

元 受		元 受		元 受		元 受	
受入月日	番 號	百分中 モルヒネ量	瓶 數	價	一瓶ノ價	何月何日	第何號
		九以上十	何千何百	何百何圓	拾何錢何厘	何月何日	第何號
		十以上十一	何千何百何十	何百圓	拾何錢何厘	何月何日	第何號
			何千何百	何千何百圓		總 計	
前記ノ殘餘品アルトキハ表物ニ記入スヘシ							
賣 捌							
賣捌月日	番 號	瓶 數	價	買受人住所	姓 名	何月何日	第何號
				何國郡何町村	藥舖 何某	何月何日	第何號
				何國郡何町村	醫師 何某	何月何日	第何號
				何國郡何町村	何人 何某	何月何日	第何號
一匁以下賣捌							
何月何日	何番號ノ内	何 分	何 錢	何國郡何町村	何 某	何月何日	何 某

元受賣捌差引殘

阿片何百何拾瓶明治何年六月三十日  
十二月三十一日 現在高  
前書之通相違無之候也

山形縣下何國何郡何町村番地  
阿片賣捌特許藥舖

年 號 月 日

長 官 宛

○第四款 賣藥營業及請賣行商出願手續

(縣)乙第七十七號 十六年十二月三日

明治十三年十一月乙第二十四號布達賣藥營業及請賣行商出願手續左ノ通改正候條此旨  
布達候事

第一章 賣藥營業願手續

- 第一條 賣藥營業ヲナスモノハ方名藥品分量製法用法服量効能等ヲ明記シタル願書調印  
以下ニ現藥劑ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ差出シ免許鑑札ヲ請クヘシ
- 第二條 賣藥營業滿期ニ至リ鑑札記載ノ月ヨリ滿應業ヲナスカ又ハ期限中事故アリテ廢  
業スルトキハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ
- 但滿期ニ至リ尙營業ヲナスモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願請クヘシ
- 第二章 賣藥請賣願手續
- 第三條 賣藥請賣業ヲナスモノハ其營業者ノ所持シタル鑑札ノ寫及營業者ト取結ヒタル

定約書ヲ添へ郡役所へ願出免許鑑札ヲ請クヘシ  
 第四條 賣藥請賣ヲ廢業スルトキハ賣藥者廢業ノ郡役所へ届出其鑑札ヲ返納スヘシ  
 第五條 郡役所ニ於テハ前條々ノ如ク請賣營業ヲ許可シ又ハ廢業ヲ届出タルキハ其方名及賣藥者國郡區住所氏名並ニ請賣人氏名族籍住所等第一號第二號書式ニ照準シ毎月取調翌月五日限リ縣廳へ届出ツヘシ

第三章 賣藥行商願手續

第六條 賣藥行商ヲナスモノハ其方名ヲ記載シ郡役所へ願出行商鑑札ヲ請クヘシ  
 但買子ヲシテ行商セシムルキハ其買子ノ氏名族籍住所年齢等ヲ記載シ郡役所へ願出許可ヲ請クヘシ

第七條 賣藥行商者廢業スルキハ郡役所へ届出其鑑札ヲ返納スヘシ  
 第八條 郡役所ニ於テハ前條々ノ如ク行商ヲ許可シ又ハ廢業ヲ届出タルキハ其方名及行商人氏名族籍住所等第一號第二號書式ニ依ヒ毎月取調翌月五日限リ縣廳へ届出ツヘシ  
 但買子ヲシテ行商セシムルキハ其買子ノ住所氏名年齢ヲ登記スヘシ

第一號書式

何月 賣藥請賣人方名姓名御届

方名	許可年月日	營業者族籍	營業者氏名	本人族籍	本人氏名
何	何年何月何日	何縣何國何郡何町	何	何郡何町何番	何
第	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何

同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同

右鑑札下附ノ分取調此段及御届候也  
 年月日  
 縣令 宛

郡長 氏名 印

第二號書式

何月 賣藥請賣廢業方名姓名御届

方名	鑑札番號	鑑札下付年月日	廢業月日	氏名
何	第何號	何年何月何日	何月何日	何
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同

右廢業ノ分取調此段及御届候也  
 年月日  
 縣令 宛

郡長 氏名 印

第五款 雜藥販賣取締規則及請賣行商手續

(縣)乙第八十七号

十八年八月十四日

雜藥販賣取締規則左之通相定メ來ル九月十日ヨリ施行ス

右布達候事

雜藥販賣取締規則

- 第一條 此規則ニ定ムル雜藥トハ惡臭止及飲食物ノ防腐藥其他鼠蠅虱蚤蚊等驅除ノ目的ヲ以テ調製シタルモノヲ云フ
- 第二條 雜藥ヲ製造販賣セント欲スル者ハ方名藥品分量製法用法用量功能ニ詳記シ第一号書式ニ照準願出免許證ヲ請クヘシ
- 第三條 免許ノ藥劑ニテ其藥品分量製法用法用量功能ヲ改正セント欲スルトキハ第二号書式ニ照準願出許可ヲ受クヘシ
- 但方名ヲ改正セント欲スルトキハ舊免許證ヲ返納シ更ニ免許證ヲ請クヘシ
- 第四條 免許ノ雜藥ト雖トモ有害品ナルコトヲ發見スルトキハ直チニ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第五條 廢業死亡或ハ他管下ニ轉籍寄留セントスルトキハ免許證ヲ返納スヘシ
- 第六條 相續人ニ於テ營業ヲ繼續セント欲スルキハ其旨願出免許證書換ヲ請フヘシ
- 第七條 免許證ヲ遺失毀損スルカ又ハ他町村ニ轉居或ハ氏名族籍ヲ變換セントキハ其事由ヲ具シ免許證再渡又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第八條 雜藥ヲ請賣セント欲スル者ハ製造人所持ノ免許證寫ヲ添ヘ郡役所ニ願出免許證ヲ請クヘシ

但其證ナキモノハ第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第九條 雜藥ヲ行商セント欲スル者ハ製造人又ハ請賣人ニ於テ自ラ行商スルト賣子ヲ派出シテ行商セシムルニ拘ハス郡役所ニ願出免許證ヲ請クヘシ

第十條 請賣及行商ヲ廢業スルキハ郡役所ニ届出免許證ヲ返納スヘシ

第十一條 此規則第二條第三條第八條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラ

ルヘシ

第一号書式

雜藥御検査願

一方名

藥品分量

製法

用法

用量

功能

右雜藥販賣仕度候間御検査ノ上免許證御下渡被成下度藥品相添ヘ此段奉願候也

山形縣何郡何町村何番地族籍

○寄留者ハ何府縣何國何郡區何町村番地族籍  
當時山形縣何郡何町村何番地何誰方ニ寄留  
ト記スヘシ

年月日

何郡何町衛生委員 氏名印

前書之通相違無之候也

縣令宛

何郡何町戸長 氏名印

第二號書式

雜藥改正願

一方名

藥品分量 製法

用法 用量

功能

右明治何年何月何日御検査済免許證御下渡營業仕居候處今般藥品分量製法用法用量功能  
左之通改正仕度候間御許可被成下度依テ藥品相添へ此段奉願候也

改正 藥品分量 製法 用法 用量 功能

山形縣何郡何町何番地族籍  
寄留者ハ何府縣

年月日

何郡何町衛生委員 氏名印

縣令宛

前書之通相違無之候也

何郡何町戸長 氏名印

○第六款 無印紙賣藥行商者取締

(本)第百五十四號

十八年五月十一日

各警察署長

賣藥行商トシテ管下徘徊スル者ノ中賣藥印紙ノ檢査ヲ規避シ無印紙ノ藥品ヲ販賣センカ  
爲メ旅人宿ニ非ラサル家宅へ止宿スル者往々有之趣ニ相聞へ取締上大ニ關係ヲ有スル儀  
ニ付右行商者ノ舉動平素注意シ其止宿所内ニ至ル迄嚴密探偵ヲ逐ケ候儀可致此旨申達候  
也

(本)達四百二十壹号

十八年十二月九日

各警察署

本年五月十一日付達第百五十四号ヲ以テ賣藥行商者無印紙ノ藥品ヲ販賣センカ爲メ旅店  
ニアラサル民家ニ宿スルモノ探偵方ノ儀相達候處爾後該潛匿者有之ニ於テハ所在租稅

検査員派出所へ通知候様可致此旨申達候事  
但所属分署へハ其署ヨリ通達スヘシ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字が並ぶ）



03287

明治三十二年十二月編輯

山形縣警察法規

山形縣警察本部

033577-001-2

CZ-1351-22-01

山形縣警察法規

山形縣警察本部

天

M22

BBK-0416

